

第3章 各施設における取組

1. 体育館・屋内競技場等

1-1. 施設の現状

(1) 基本情報

＜体育館 10 施設・屋内競技場等 4 施設＞

※スケートリンクを備えている月寒体育館、美香保体育館は、“3.スケート場・カーリング場”で整理

施設名	整備年度	延床面積(m ²)	施設の特徴等
中央体育館 (北ガスアリーナ札幌 46)	2019	14,612	相撲室、ボクシング室、剣道室、柔道室、弓道室、アーチェリー室、ウェイトリフティング室、客席約 2,500 席
北区体育館	1982	4,652	ボクシング室、トレーニングデッキ
東区体育館	1981	4,379	弓道・アーチェリー (トレーニングデッキ)
白石区体育館	1985	4,831	ダンスバー・鏡 (小体育室)、ランニングデッキ
厚別区体育館	1980	4,751	ランニングデッキ
豊平区体育館	1984	5,504	ハンドボール (競技室)、ランニングデッキ、野球場併設
清田区体育館	1997	4,638 (6,999)	ダンスバー・鏡 (第 2 体育室)、ランニングデッキ 清田温水プール併設
南区体育館	1983	4,877	体操競技機器、ランニングデッキ
西区体育館	1986	5,161 (7,734)	弓道場、重量拳室、ランニングデッキ 1999 年に西温水プールを増築 (併設)
手稲区体育館	1980	4,432	トレーニングデッキ
中島体育センター	1979	4,659	平成 12 年 (2000 年) に北海道から札幌市に移管
宮の沢屋内競技場	1987	4,588	ライフル競技、テニス、フットサル
(月寒体育館)	1971	9,780	通年リンク、客席約 2,300 席、2 階ロビー卓球開放
(美香保体育館)	1971	6,655	冬季リンク、夏季体育館、客席約 1,270 席

※延床面積の()内は、温水プールとの合計延床面積

【体育館の状況】

- 1 区 1 施設の考えに基づき、10 施設配置しています。
- 体育館には共通的に、大空間の競技室や体育室及び、トレーニング室、格技室などを設置しています。
- 体育館によって、ボクシングや弓道、体操など、特徴的な競技機能を設置しています。
- 中央体育館 (北ガスアリーナ札幌 46) は、他の体育館と北海道立総合体育センター (北海きたえーる) との中間的な規模で、観客席や相撲、ボクシング等の専用室があるなどの特徴があります。

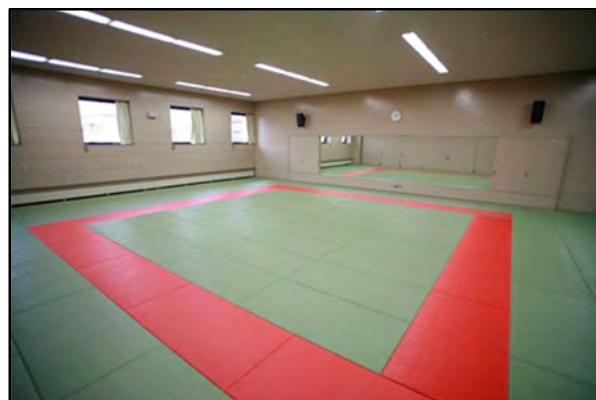
【屋内競技場等の状況】

- 機能などに特色のある屋内競技場を 4 施設設置しています。
- 中島体育センターは、北海道立施設として開館した後、札幌市に移管された施設であり、体育室等の面積は 1,000 m²に満たないですが、柔道の試合場 2 面を備えているなどの特徴があります。

- 宮の沢屋内競技場は、国民体育大会（平成元年（1989年））のライフル射撃競技の主会場となるなど、札幌市唯一の射撃競技の場であるほか、床面を人工芝とし、テニスやフットサルなどでも利用されています。



競技室（区体育館）



格技室（区体育館）



アリーナ（北ガスアリーナ札幌46）



相撲室（北ガスアリーナ札幌46）

（2）利用状況

①利用者数は長期的に見て増加傾向

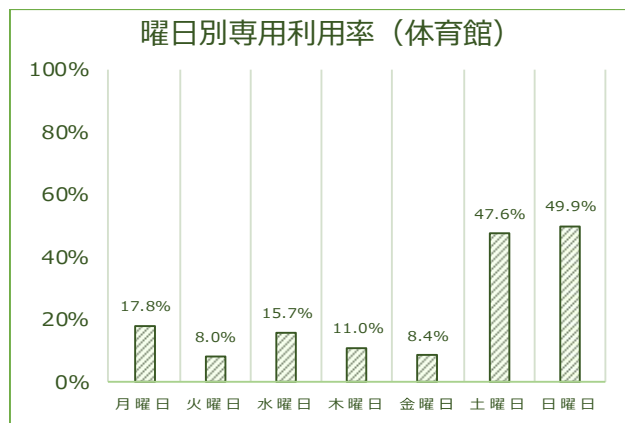
- ・年間利用者数は、平成11年度（1999年度）の129万人から平成29年度（2017年度）の180万人まで約40%増加しています。これは札幌市の人口増加（平成11年（1999年）：179万人⇒平成29年（2017年）：195万人、約9%増）を大きく上回る伸び率です。



※体育館10施設、中島体育センターの利用実績を合計
 ※平成30年度の利用者減は北海道胆振東部地震の影響
 ※令和元年度の利用者減は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響

②週末は競技大会等の専用利用が多い

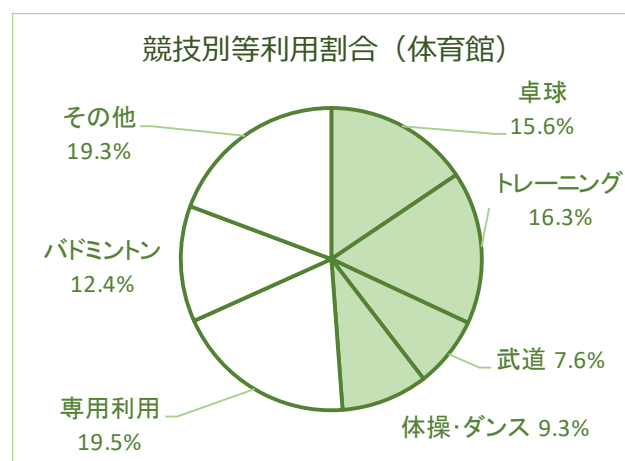
- ・競技大会やサークル活動等の専用利用ニーズが週末に集中していることを踏まえ、専用利用は週末を中心に全体の2割程度としています。
- ・専用利用以外の時間帯は一般開放（個人利用、教室利用）に供しています。
- ・体育館は多くの方に利用され、一般開放では時間帯によって待ち時間が発生するなど混雑し、専用利用の予約は取りにくい状況となっています。



※体育館 10 施設、中島体育センターの平成 29 年度競技室予約データより集計

③比較的小規模な室内でも実施可能な競技による利用が半数程度

- ・体育館は、競技大会等の高機能を要求されるものから、日常的な練習、趣味、健康づくりまで、幅広い目的で利用されています。
- ・札幌市中学校体育連盟選手権大会等の区レベルから全市レベルの試合・大会が多く実施され、今後も引き続き一定の需要が見込まれます。
- ・現在、体育館で実施されている種目のうち、比較的小規模な室内でも実施可能な競技（卓球、トレーニング、武道、体操・ダンス）による利用者は約半数（48.8%）を占めています。

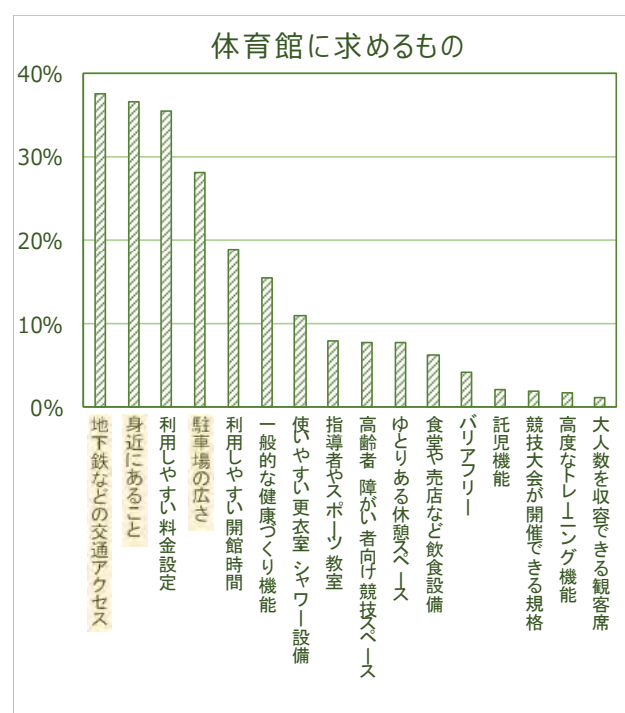


※体育館 10 施設、中島体育センターの平成 29 年度利用実績より集計

（3）市民意見

○市民意見は立地に対するものが上位

- ・市民意識調査では、「体育館に求めるもの」として、配置場所やアクセスに関する内容が上位を占めています。



※平成 29 年度市民意識調査より
(サンプル数 2,602 人：あてはまるものを 3 つまで選択)

(4) 類似施設の状況等

① 学校施設

- ・学校施設については、学校教育に支障のない範囲で市民に開放する学校施設開放事業を実施しています（令和2年度（2020年度）：体育館（280校）、格技場（17校））。
- ・体育館は、多くの市民に活用され、利用率も90%近くで推移し、予約が取りにくい状況です。
- ・格技場の利用率は40%台となっており、さらに活用できる可能性があります。

② コミュニティ施設※19

- ・地域のコミュニティ施設では、比較的小規模な空間でも可能な、武道や体操・ダンスなどが行われています。
- ・コミュニティ施設においては、利用されていない時間帯、いわゆる「空き時間」があることから、こうした空き時間をスポーツの場として、さらに有効活用できる可能性があります。
- ・近年、小学校を改築する際、児童会館や地域施設との複合化と併せ整備している多目的ホール（約150㎡）は、今後、徐々に増えていく予定であり、これをスポーツの場として活用できる可能性があります。

③ その他、市所有施設

- ・札幌市身体障害者福祉センター（西区）には体育館を設置しており、身体に障がいのある個人・サークルや障がい者団体に利用されています。
- ・札幌国際交流館（白石区）に、一般利用に供している体育館があります。

④ 大学

- ・札幌市内には大学が10校以上あり、こうした大学の体育施設について、市民利用が可能となれば、市民がスポーツに参画する機会が大きく広がる可能性があります。

⑤ 民間施設

- ・札幌市内には、トレーニングやダンス、ヨガ、バレエ、空手などを行う民間施設が100施設以上あり、こうした施設の市民利用は、さらに活性化させていける可能性があります。

⑥ 北海道所管施設

- ・北海道立の総合体育センター（北海きたえーる）及び、真駒内公園屋内競技場（真駒内セキスイハイムアイスアリーナ）は、最大約10,000人を収容するアリーナを備える等、札幌市所管の体育館よりも高機能であり、プロスポーツやコンサートの開催など多目的に利用され、市所管スポーツ施設との機能分担が図られています。

※19 【コミュニティ施設】…区民センター、地区センターなどの地域施設。

1-2. 配置活用の方向・取組

(1) 現状認識

- 体育館等の利用者数は増加傾向（平成 11 年度（1999 年度）129 万人 ⇒ 令和元年度（2019 年度）171 万人）にあり、予約が取りにくいなど混雑した状況にあります。
- 競技大会開催など、競技性の高い利用を担える施設は、基本的に公共施設（市、道）のみです。
- 比較的小規模な室内でも実施可能な種目（卓球、トレーニング、武道、体操・ダンス）の一般開放利用が約半数を占めており、こうした利用について、コミュニティ施設^{※19}や民間施設などの更なる活用により、市民のスポーツ機会拡大が図られる可能性があります。
- 各体育館はそれぞれ特徴的な機能を備え、市内の区体育館等の総体で、スポーツ環境の多様性を確保しています。
- 市民の体育館に対する意見は、良好な交通アクセスや身近な場所にあるなど、立地に関わるものが多く占めています。
- 施設の多くは 1980 年前後に整備しており、2040 年頃に集中的に更新時期を迎えます。

(2) 配置活用方針

**体育館等は競技機能を中心的に担うとともに、
利便性の高い場所に他施設と集約するなど、効率的・効果的な配置を推進**

体育館等は、利用者が増加傾向にあることから、札幌市のスポーツ環境を支えるうえで必要不可欠な施設であり、今後も引き続き機能を維持していくとともに、必要に応じて新たなニーズ等を踏まえた機能向上を図っていきます。

一方で、今後、人口減少が見込まれる中、将来も安定した持続可能な都市経営を実現するため、効率的・効果的な施設配置を進めていきます。

① 体育館等は競技機能を中心的に担う 第2章-取組2・5

- ・ 体育館等は、他の施設では実施が困難である競技大会など、高機能が求められる利用を中心に担っていきます。

② 日常的な運動・健康づくり機能は類似施設の利用拡大により確保 第2章-取組2

- ・ 現在、体育館等において、日常的な運動・健康づくりを目的とした一般開放利用の約半数を占める、比較的小規模な室内でも実施可能な卓球や体操・ダンスなどについては、身近な類似施設（学校、コミュニティ施設^{※19}、公園、大学、民間施設など）の活用を一層進めていくことで、市民がスポーツに参画する機会を確保していきます。

※19 【コミュニティ施設】…区民センター、地区センターなどの地域施設。

③施設の集約・機能向上 第2章-取組1・3～5

- ・施設更新にあたっては、周辺にあるスポーツ施設等との集約（複合化・多目的化）のほか、既存施設が備える特徴的な機能の維持・強化による施設総体としての多様性確保及び、時代の変化に伴う新たなニーズへの対応等による機能向上など、効率的・効果的な施設整備・施設配置を進めていきます。

④利便性確保・拠点性向上 第2章-取組1・5

- ・施設更新にあたっては、全市的なバランスに配慮しながら、地域交流拠点^{※12}等の交通利便性の高い場所への立地や、スポーツに着目した高次機能交流拠点^{※26}への集積など、利便性確保及び拠点性向上に資する配置を進めていきます。

⑤計画的な修繕、長寿命化等による更新時期の分散・財政支出の平準化 第2章-取組1・5

- ・既存施設について、鉄筋コンクリート造の耐用年数の目安とされている築60年まで有効活用するため、計画的な修繕など、適切な維持管理を進めていきます。
- ・既存施設の更新時期が2040年代に集中することに対応していくため、構造体の健全度や保有する機能、利用状況、周辺状況等を総合的に勘案し、築60年を超えて利用を継続することが妥当と判断される施設については、築80年までの利用を目指し、長寿命化改修を実施することにより、更新時期の延期を図ります。
- ・更新時期の分散、財政支出の平準化を図るため、必要に応じて更新時期の前倒しや延期をするなど、柔軟に対応を検討します。

（3）概ね10年間の取組事項**●地域のまちづくりや他施設の建替え等と連携した施設更新・施設配置の検討****○地域のまちづくりや他施設の建替え等と連携した施設更新・施設配置の検討** 第2章-取組1・5

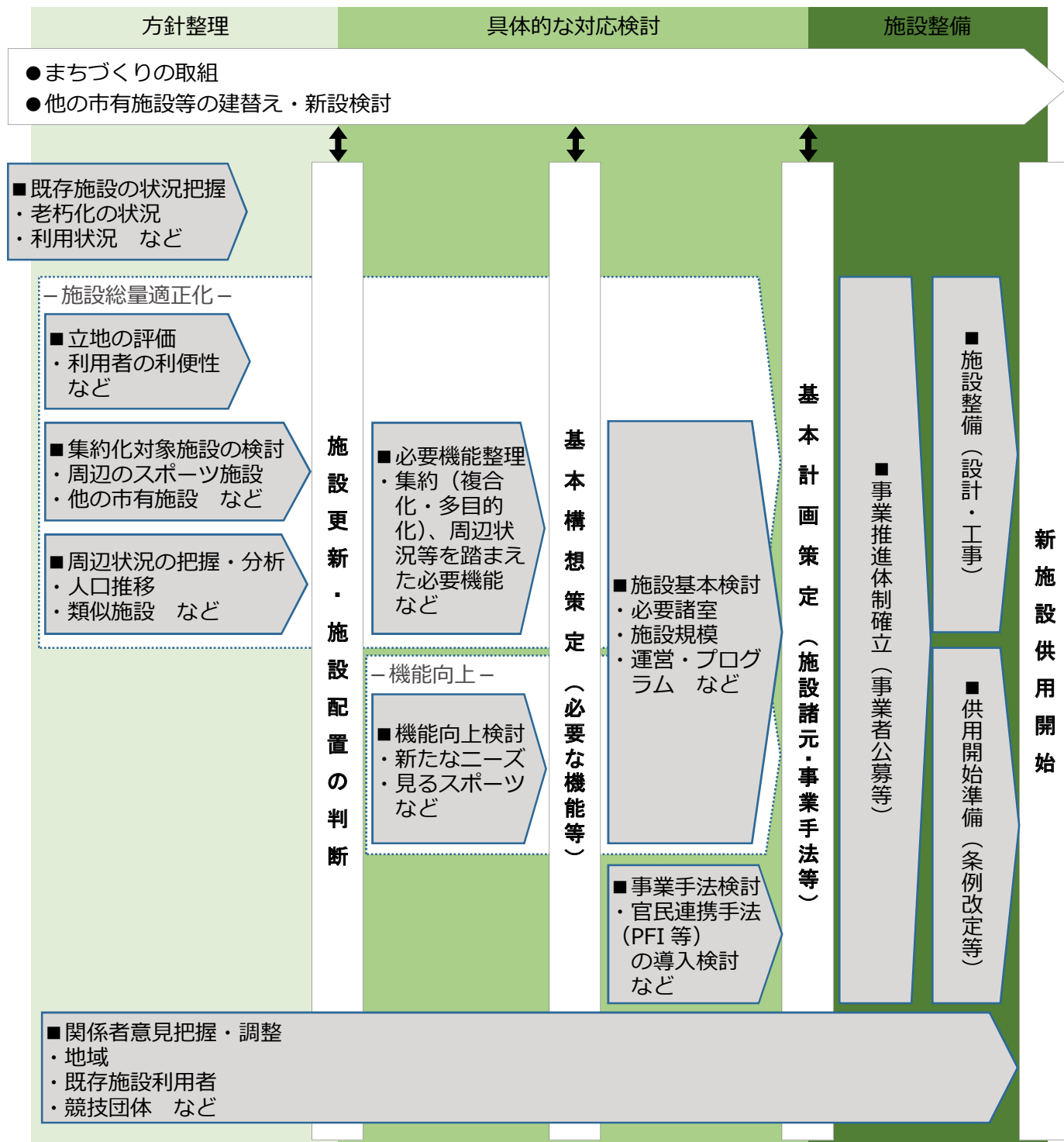
- ・地域交流拠点^{※12}やスポーツに着目した高次機能交流拠点^{※26}におけるまちづくりの動き及び、他の市有施設等の更新・新設などと連携し、老朽化した施設の拠点への移転更新や他施設等との機能集約等について検討します。

※12 【地域交流拠点】…交通結節点である主要な地下鉄・JR駅周辺で、インフラの整備状況や機能集積の現状・動向等から地域の生活を支える主要な拠点としての役割を担う地域又は、区役所を中心に生活利便機能が集積するなどして区の拠点としての役割を担う地域。札幌市立地適正化計画（平成28年（2016年）3月策定）における、医療・福祉・商業等の都市機能を誘導し集約を図る都市機能誘導区域。

※26 【高次機能交流拠点】…産業や観光、文化芸術、スポーツなど、国際的・広域的な広がりをもって利用され、札幌の魅力と活力の向上を先導する高次な都市機能が集積する拠点。

<概ね 10 年間にける取組の手順>

まちづくりの取組や他の市有施設等の建替え・新設が計画されている体育館等について、以下の手順で施設更新を進める。



2. 温水プール

2-1. 施設の現状

(1) 基本情報

＜温水プール 8 施設・公的温水プール 3 施設＞

施設名	整備年度	延床面積(m ²)	主な設備・特徴等
東温水プール	1996	2,396	25m プール、ウォータースライダー
白石温水プール	1992	2,144	25m プール、多目的室
厚別温水プール	2004	2,926	25m プール、多目的プール、多目的室
豊平公園温水プール	1983	2,100	25m プール、多目的室、トレーニングデッキ、公園内
清田温水プール	1997	2,361 (6,999)	25m プール、身障者用リフト、清田区体育館併設
西温水プール	1999	2,573 (7,734)	25m プール、ウォータースライダー、身障者用リフト 西区体育館（1986 年度建築）に増築
手稲曙温水プール	1994	2,395	25m プール、多目的室
平岸プール	1989	8,257	50m、25m プール、客席約 1,400 席、水泳連盟公認
(札幌サンプラザ)	－	－	北区公的温水プール（市所有施設）
(サンシャインスポーツクラブ)	－	－	中央区公的温水プール（民間施設）
(北海道青少年会館コンパス)	－	－	南区公的温水プール（民間施設）

※ 延床面積の()内は、区体育館との合計延床面積。

【区温水プールの概要】

- 区温水プールは、1 区 1 公的温水プールの考えに基づき、市所管スポーツ施設を 7 施設配置しています。このほか、区温水プールの機能を担う公的温水プールとして、市が所有する札幌サンプラザのほか、民間事業者所有の 2 施設を配置しています。
- 区温水プールには共通的に、25m プール（7 レーン）、幼児用プールなどを設置しています。

【平岸プールの概要】

- 平岸プールには、公式競技会の開催に対応する日本水泳連盟公認の長水路（50m）プール（9 レーン）や、25m プール（6 レーン）、観客席などを設置しています。
- 各種大会の舞台となっているほか、長水路プールは可変床により、アーティスティックスイミング（シンクロナイズドスイミング）や水球にも対応可能です。



区温水プール

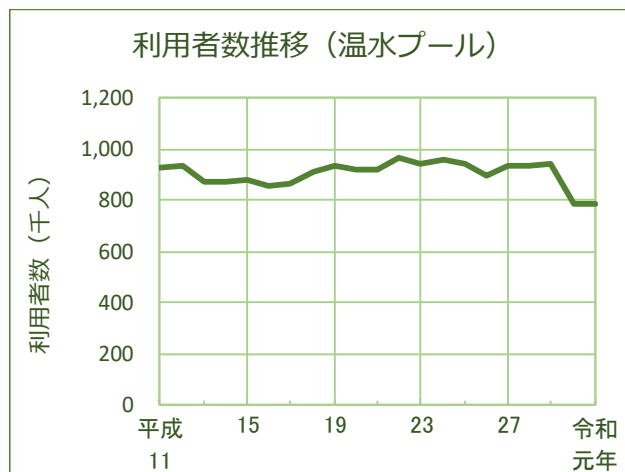


平岸プール

(2) 利用状況

① 利用者数は長期的に見て横ばい

- ・ 温水プール全体の年間延べ利用者数は 90 万人程度で推移し、長期的に見て横ばいの傾向です。



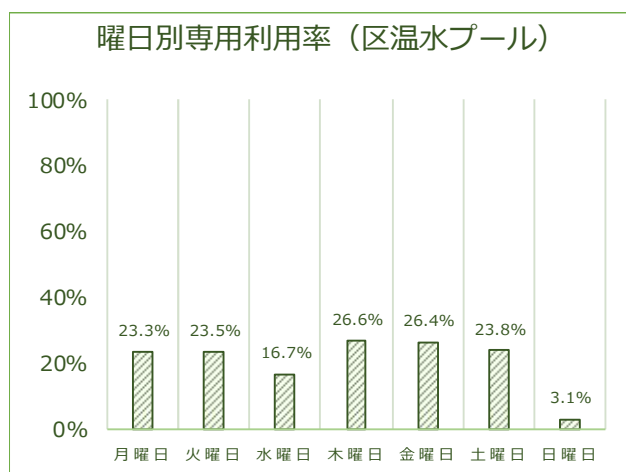
※各温水プール、平岸プールの利用実績を合計

※平成 30 年度の利用者減は北海道胆振東部地震の影響

※令和元年度の利用者減は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響

② 区温水プールは個人利用、教室利用が中心

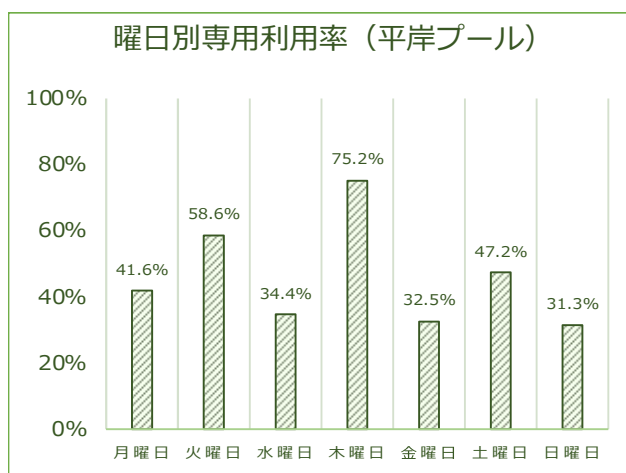
- ・ 区温水プールは、競技団体等が専用利用している割合はそれほど高くなく、個人利用や教室利用が多い状況です。
- ・ 専用利用以外の時間帯は、一般開放（個人利用、教室利用）に供しています。
- ・ 専用利用について、各競技団体等と調整を図りながら、個人利用や水泳教室等を含め、コース毎に利用内容を設定するなどにより、利用者ニーズに対応しています。



※区温水プール7施設の平成 29 年度利用実績より集計

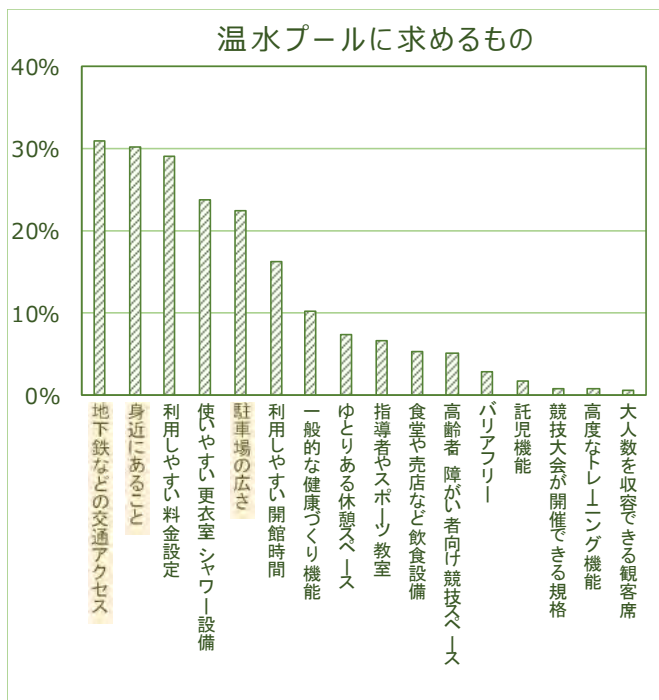
③ 平岸プールは競技大会開催に対応

- ・ 平岸プールは、市内唯一の公式競技会に対応する長水路（50m）プールをもつ施設として、全道・全市規模の競技大会が開催され、競技団体等の利用も含め、区温水プールよりも専用利用率が高くなっています。
- ・ 専用利用以外の時間帯は、一般開放（個人利用、教室利用）に供しています。



※平岸プールの平成 29 年度利用実績

(3) 市民意見



○市民意向は立地に対するものが上位

- ・市民意識調査では、「温水プールに求めるもの」として、配置場所やアクセスに関する事項が上位に位置しています。

※平成 29 年度市民意識調査より
(サンプル数 2,602 人：あてはまるものを 3 つまで選択)

(4) 類似施設の状況等

①学校施設

- ・市内には、小学校を中心に水泳授業用プールが約 200 施設ありますが、ほとんどが屋外施設であることから、主な利用期間は夏季に限られ、年間当たりの実稼働日数は 30 日程度と、稼働率が低い状況です。

②公園施設

- ・川下公園（白石区）には、屋内施設として、競技用プールより浅い親水プールや幼児プール等があります。
- ・稲積公園（手稲区）には、夏季のみ営業する屋外施設として、流れるプールやウォータースライダーなどを備えた「ていねプール」があります。

③その他、市所有施設

- ・札幌サンプラザ（北区）には、区温水プール機能を担う屋内プール（25mプール、7レーン）を備えています。
- ・札幌国際交流館（白石区）に、一般利用に供している小規模な屋内プール（25m、4レーン）があります。

④民間施設

- ・札幌市内には、民間所有の屋内プールが約 30 施設あり、そのうち 2 施設（サンシャインスポーツクラブ、北海道青少年会館コンパス）は区温水プールの公的機能を担っています。

2-2. 配置活用の方針・取組

(1) 現状認識

- 区温水プール等の利用者数は横ばい傾向です（年間約90万人）。
- 札幌市内で、公式競技会などに対応できる長水路プールを備えているのは、平岸プールのみです。
- 札幌市が所有するプール施設は、区温水プール等のほか、学校の水泳授業のための屋外プールが約200施設あり、これら屋外プールの主な利用期間は夏季に限られ、稼働率が低い状況です。
- 市内には民間所有の屋内プールが約30施設あり、そのうち2施設は公的温水プールとして区温水プールの代替施設となっていることから、運動・健康づくり機能は民間施設でも対応可能です。
- 市民のプール施設に対する意見は、良好な交通アクセスや身近な場所にあるなど、立地に関わるものが多く占めています。
- 施設の多くは1990年代に整備しており、2050年頃に集中的に更新時期を迎えます。

(2) 配置活用方針

**競技機能（長水路）は市所管プールが担い、
運動・健康づくりを担うプールは他施設との集約・連携及び再配置等を検討**

温水プールは、年間を通して水泳環境を提供する場として、札幌市のスポーツ環境を支えるうえで必要不可欠な施設であり、引き続き機能を確保していきます。

なお、機能の確保にあたっては、学校プールや民間プールを含めた、効率的・効果的な施設のあり方を検討し、施設総量適正化と機能向上の両立を図っていきます。

①競技機能（長水路プール）は市所管温水プールが担う 第2章-取組2・5

- ・市所管の長水路プール（平岸プール）は、他のプール施設では担うことが難しい競技大会開催などの競技機能や、障がい者の利用、水球等の種目への対応を中心に担っていきます。

②日常的な運動・健康づくり機能は他施設との集約・連携及び再配置等を検討 第2章-取組1～3

- ・日常的な運動・健康づくり機能を担う施設については、市内にある様々なプール施設（区温水プール、学校プール、民間プール）を総合的に捉え、民間プールの更なる活用や市民利用と学校利用を兼ねる多目的化、民間活力を活用した施設の整備・運営の可能性を検討するなど、効率的・効果的な施設の配置活用を進めていきます。
- ・施設配置にあたっては、市民や各小学校からのアクセス性を考慮し、空白地帯が生じないように進めていくことで、利便性の向上を図っていきます。

(3) 概ね 10 年間の取組事項

- 市内プール施設の集約、民間活力活用の可能性を検討
- 平岸プール（長水路）のバックアップ施設の必要性検討

① 市内プール施設の集約の可能性検討 第2章-取組1・3

- ・ 日常的な運動・健康づくりを担うプール施設について、札幌市が所管する区温水プール（市民利用）と学校プール（水泳授業）との集約（多目的化）の可能性など、効率的・効果的な施設のあり方を検討します。

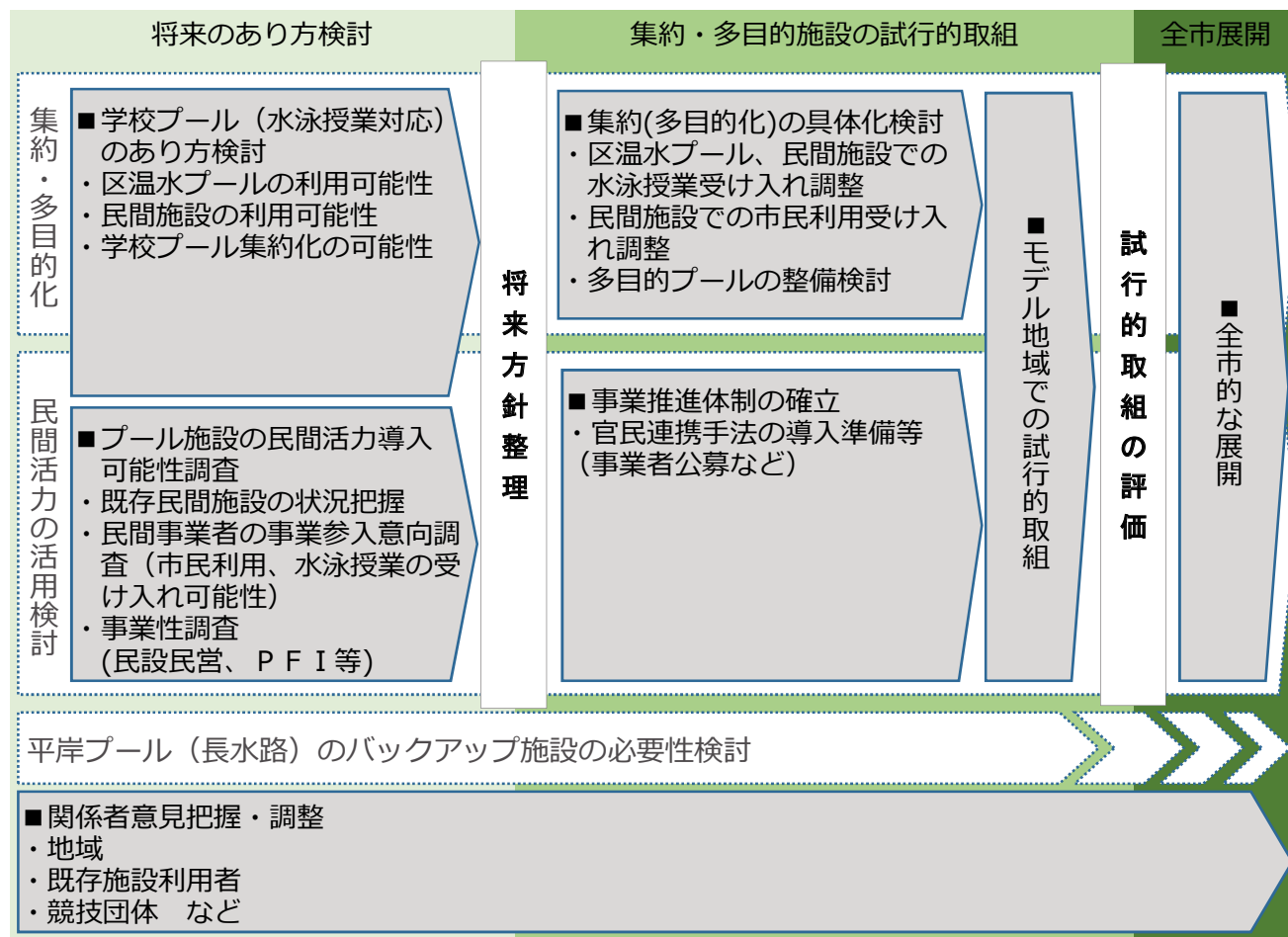
② 民間活力の活用可能性調査・検討 第2章-取組2・3

- ・ 札幌市内に民間所有のプール施設が多く立地していることを踏まえ、日常的な運動・健康づくりを担う民間プール施設の拡大や、施設の整備・運営に係る民間活力の活用可能性について、調査・検討を行います。

③ 平岸プール（長水路）のバックアップ施設の必要性検討 第2章-取組3・5

- ・ 現在、市内にある競技大会開催等が可能な長水路プールは平岸プールのみであるため、競技機能の強化や、平岸プールの改修・非常時における長期休館等への対応の観点から、バックアップ施設の必要性について検討します。

<概ね 10 年間にける取組の手順>



3. スケート場・カーリング場

3-1. 施設の現状

(1) 基本情報

＜スケート場 3 施設・カーリング場 1 施設＞

※円山スケート場は、円山陸上競技場の有効活用であるため、本項から除外

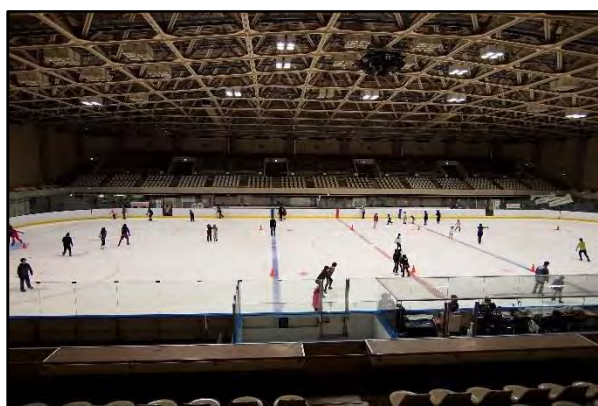
施設名	整備年度	延床面積(m ²)	主な設備・特徴等
月寒体育館	1971	9,780	通年リンク、客席約 2,300 席、2 階ホワイエ卓球開放 アイスホッケーの競技強化センター施設として J O C が認定
美香保体育館	1971	6,655	冬季リンク、夏季体育館、客席約 1,270 席
星置スケート場	1985	3,175	通年リンク
(円山スケート場)	1935	—	冬季屋外リンク（円山競技場を活用）
カーリング場 (どうぎんカーリングスタジアム)	2012	3,375	カーリング専用施設、通年リンク 5 シート、客席約 220 席

【スケート場の概要】

- 月寒体育館は通年スケートリンクとして供用しており、日本オリンピック委員会（JOC）から認定された、国内に 3 か所あるアイスホッケーの競技別強化センター※28 の 1 つになっています。
- 美香保体育館は、冬季はスケートリンク、夏季は体育館として供用しています。
- 月寒体育館、美香保体育館は、1972 年の札幌オリンピック開催に併せ整備し、これまでアイスホッケーやフィギュアスケートの各種競技大会開催及び市民への一般開放など、オリンピックのレガシー※27 として長く活用されています。
- 星置スケート場は、昭和 60 年度（1985 年度）に篤志家の寄附を受けた後、通年スケートリンクとして供用しています。

【カーリング場】

- カーリング場は、公共施設としては全国初となる、通年型カーリング専用施設として整備しました。



スケート場（月寒体育館）



カーリング場（どうぎんカーリングスタジアム）

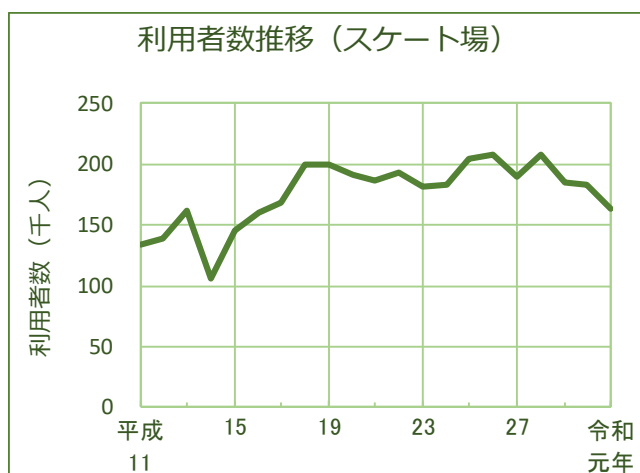
※27 【レガシー】…過去に築かれた、精神的・物理的遺産。

※28 【日本オリンピック委員会（JOC）認定競技別強化センター】…各競技団体の選手強化活動が円滑に行えるよう、施設活用を支援していくことを目的に、JOC が認定した国内外既存トレーニング施設。

(2) 利用状況：スケート場

①スケート場の利用者数は、近年横ばい

- ・近年のスケート場全体の年間延べ利用者数は20万人程度で推移し、横ばいの傾向です。



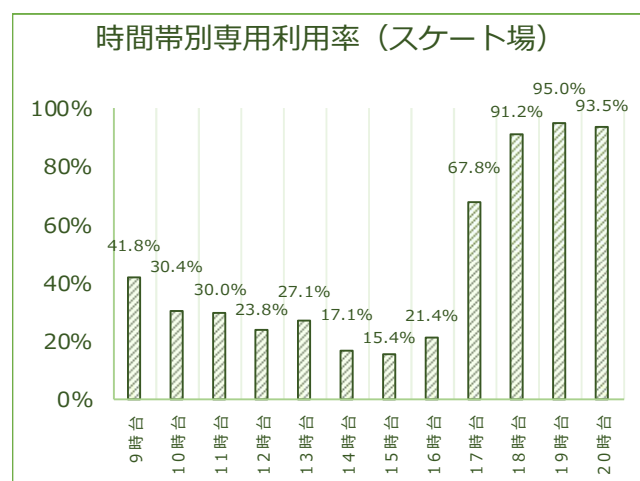
※月寒体育館、美香保体育館、星置スケート場の利用実績を合計

※平成14年度頃の利用者数減は、月寒体育館が平成14年2月～平成15年10月まで改修工事により閉鎖していた影響

※令和元年度の利用者数減は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響

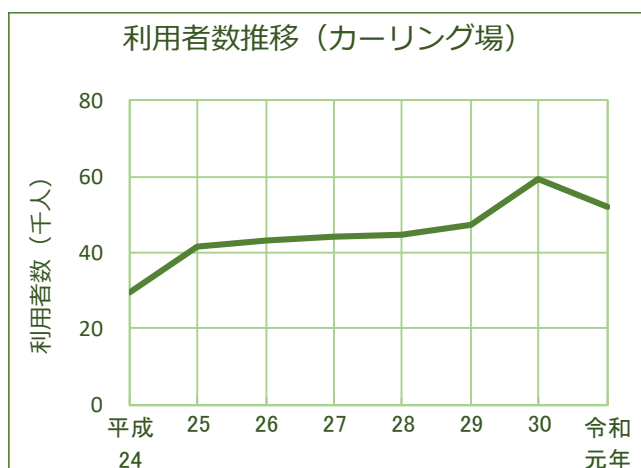
②スケート場の専用利用は早朝・夜間が中心

- ・アイスホッケーやフィギュアスケートは、団体での練習等で利用されることが多いため、専用利用のニーズが高く、時間帯は早朝や夜間に集中していることが特徴的です。
- ・専用利用は早朝や夜間を中心に全体の4割とし、専用利用以外の時間帯は、一般開放（個人利用、教室利用）に供しています。
- ・夜間のニーズが高い専用利用について、状況に応じ、開放時間を延長し対応しています。



※月寒体育館、美香保体育館、星置スケート場の平成29年度利用実績より集計

(3) 利用状況：カーリング場

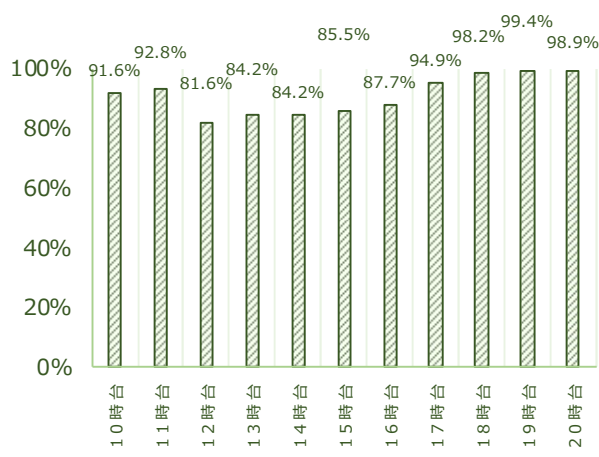


※令和元年度の利用者数減は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響

①カーリング場の利用者数は増加傾向

- ・カーリングは、1998年長野五輪で正式競技となった後、急速に人気が高まりました。
- ・こうした状況を反映し、カーリング場の利用者数も、供用を開始した平成14年度（2012年度）の約3万人から、平成30年度（2018年度）には約6万人と倍増しています。

時間帯別専用利用率（カーリング場）



※カーリング場の平成 29 年度利用実績

②カーリング場の利用は終日、飽和状態

- ・カーリングは団体競技であるため、全て予約が必要な専用利用により運用しています。
- ・利用率は、全時間帯で 8 割を超えており、混雑緩和のため開放時間を延長し対応していますが、飽和状態となっています。
- ・市外や海外からの利用者も見受けられ、カーリングを体験することが、観光やインバウンド※⁹の目的のひとつとなっています。

（４）類似施設の状況等

○北海道所管施設

- ・札幌市内にある類似施設としては、1972 年札幌オリンピックのレガシー※²⁷である北海道立真駒内公園屋内競技場（真駒内セキスイハイムアイスアリーナ）・屋外競技場（真駒内セキスイハイムスタジアム）がありますが、両施設とも 10,000 席以上の観客席を備えるなど、札幌市が所管するスケート場よりも高機能であり、プロスポーツやコンサートの開催等、多目的に利用され、市所管施設との機能分担が図られています。

（５）その他

○冬季オリンピック・パラリンピック競技大会の招致、ウインタースポーツの拠点都市へ発展

- ・札幌市では、2030 年の冬季オリンピック・パラリンピック招致や、ウインタースポーツの拠点都市への発展を目指しており、この実現に向けた競技環境を確保していく必要があります。

※⁹ 【インバウンド】…外国人旅行者を自国へ誘致することの意。

※²⁷ 【レガシー】…過去に築かれた、精神的・物理的遺産。

3-2. 配置活用の方針・取組

(1) 現状認識

- 札幌市内にあるスケート場、カーリング場は、公共施設（市、道）のみです。
- スケート場の利用者数は横ばい傾向（年間約20万人）ですが、夜間の専用利用率は90%を超え、飽和状態にあります。
- カーリング場の年間利用者数は増加傾向にあり（平成14年度（2012年度）約3万人⇒令和元年度（2019年度）約6万人）、また、利用率は全ての時間帯で80%を超え、飽和状態にあります。
- 1972年に開催された札幌オリンピックのレガシー^{※27}である、既存施設の更新時期や手法、立地などを含めた将来のあり方を考えていく必要があります。
- 札幌市が招致を目指している、2030年の冬季オリンピック・パラリンピック競技大会開催や、ウインタースポーツの拠点都市への発展に向け、今後のウインタースポーツの施設環境の向上を考えていく必要があります。

(2) 配置活用方針

スケート場、カーリング場は、ウインタースポーツの振興に向け
機能維持・強化を図るとともに、他施設との集約など、効率的・効果的な配置を推進

スケート場及びカーリング場は、札幌市のウインタースポーツを支えるうえで必要不可欠な施設であることから、今後も引き続き機能を維持していくとともに、ウインタースポーツの振興、ウインタースポーツの拠点都市への発展に向け、必要な施設環境の整備を進めていきます。

一方で、今後、人口減少が見込まれる中、将来も安定した都市経営を持続していくため、体育館等の他施設と集約するなど、効率的・効果的な施設配置を進めていきます。

①スケート場等はウインタースポーツを支える機能を担う 第2章-取組2～6

- ・札幌市が所管するスケート場及びカーリング場の機能は、他の施設で代替することは困難であり、引き続きウインタースポーツを支える施設として、必要な役割を担っていきます。
- ・ウインタースポーツの振興や、ウインタースポーツの拠点都市としての地位確立に向け、必要な機能、施設環境を確保していきます。

②施設の集約、機能向上 第2章-取組1・3～6

- ・施設更新にあたっては、周辺にあるスポーツ施設等との集約（複合化・多目的化）のほか、時代の変化に伴う新たなニーズ等への対応に向けた機能向上など、効率的・効果的な施設整備・施設配置を進めていきます。

※27 【レガシー】…過去に築かれた、精神的・物理的遺産。

③利便性確保・拠点性向上 第2章-取組1・5

- ・施設更新にあたっては、地域交流拠点^{※12}等の交通利便性の高い場所への立地や、スポーツに着目した高次機能交流拠点^{※26}への集積など、利便性確保及び拠点性向上に資する配置を進めていきます。

④計画的な維持修繕、長寿命化等による施設の有効活用 第2章-取組1・5

- ・既存施設について、鉄筋コンクリート造の耐用年数の目安とされている築60年まで有効活用することを基本に、計画的な修繕など、適切な維持管理を進めていきます。
- ・既存の体育館等の更新時期が2040年代に集中することに対応するため、構造体の健全度や保有する機能、利用状況、周辺状況等を総合的に勘案し、築60年を超えて利用を継続することが妥当と判断される施設については、築80年までの利用を目指し、長寿命化改修を実施することにより、更新時期の延期を図ります。

(3) 概ね10年間の取組事項

●2030年頃に築60年を迎える月寒体育館、美香保体育館の更新検討

①月寒体育館、美香保体育館の更新検討 第2章-取組1～6

- ・2030年頃に築60年（更新時期）を迎える、月寒体育館、美香保体育館の更新を検討します。
- ・更新後の施設は、招致を目指している2030年の冬季オリンピック・パラリンピックで活用することを念頭に検討します。
- ・更新施設の機能については、オリンピック・パラリンピック後における、施設利用、維持管理などを前提に、ウィンタースポーツの振興や、ウィンタースポーツの拠点都市としての地位確立に向けた、必要な施設環境整備を踏まえ検討します。
- ・更新施設の立地等は、地域のまちづくりとの連携による利便性確保及び拠点性向上や、他の施設との集約（複合化・多目的化）による、効率的・効果的な施設配置について検討します。

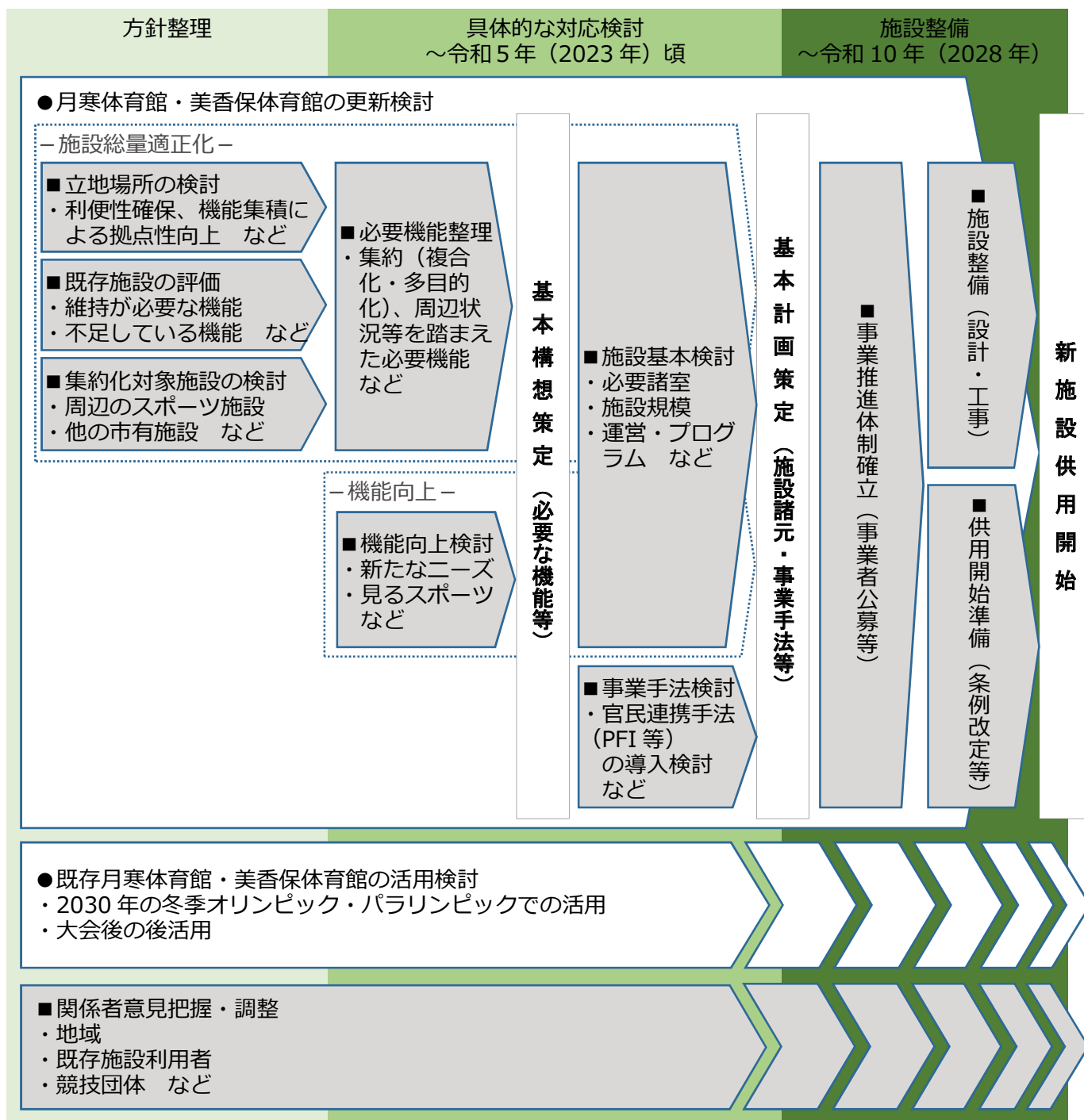
②既存の月寒体育館、美香保体育館の活用検討

- ・既存の月寒体育館、美香保体育館について、2030年の冬季オリンピック・パラリンピック開催時における活用及び、大会後の後活用について検討します。

※12 【地域交流拠点】…交通結節点である主要な地下鉄・JR駅周辺で、インフラの整備状況や機能集積の現状・動向等から地域の生活を支える主要な拠点としての役割を担う地域又は、区役所を中心に生活利便機能が集積するなどして区の拠点としての役割を担う地域。札幌市立地適正化計画（平成28年（2016年）3月策定）における、医療・福祉・商業等の都市機能を誘導し集約を図る都市機能誘導区域。

※26 【高次機能交流拠点】…産業や観光、文化芸術、スポーツなど、国際的・広域的な広がりをもって利用され、札幌の魅力と活力の向上を先導する高次な都市機能が集積する拠点。

<概ね10年間における取組の手順>



4. 野球場

4-1. 施設の現状

(1) 基本情報

＜野球場：6施設＞

※札幌ドーム及びスポーツ交流施設（つどーむ）は、野球のほか、サッカーやラグビーなどの利用も可能な多目的施設であることから、“9. 全天候型スポーツ施設”で整理

施設名	整備年度	主な仕様	その他
円山球場：硬式	1974	両翼 98m、中堅 117m、天然芝	客席約 10,500 席、収容 25,000 人
麻生球場：硬式	1980	両翼 92m、中堅 111m、天然芝	客席約 4,350 席、収容 12,000 人
美香保公園野球場：軟式	1951	3 面、両翼 80～84m、中堅 85～96m、天然芝	客席少数、1 面夜間照明あり
豊平区体育館付属野球場：軟式	1984	右翼 58m、左翼 67m、中堅 65m、天然芝	無料施設
（札幌ドーム：硬式）	2001	両翼 100m、中堅 122m、人工芝	客席約 41,000 席、サッカー等可能
（スポーツ交流施設（つどーむ）：軟式）	1997	両翼 81m、中堅 101m、人工芝	客席約 1,200 席、フットサル等可能

※硬式野球場規格（公認野球規則：両翼 97.53m、中堅 121.92m以上等）を満たす施設は札幌ドームのみ

【硬式野球場の概要】

- 札幌市内で一般利用が可能な硬式野球場は、札幌ドームを除くと、円山球場、麻生球場及び民間所有の 1 施設を含めた 3 施設のみです。
- 円山球場、麻生球場とも硬式野球場の規格（公認野球規則：両翼 97.53、中堅 121.92m以上等）を満たしておらず、公式戦を行うには不十分という指摘があるほか、いずれも動物園や住宅街など周辺に与える影響等から夜間照明設備を備えていません。

【軟式野球場の概要】

- 美香保公園野球場は、夜間照明付き 1 面を含む 3 面を有し、有料施設として一定の整備水準にあります。
- 豊平区体育館付属野球場は、公式試合等が可能な整備水準にはありませんが、無料で利用可能です。



円山球場



美香保公園野球場

(2) 利用状況

① 野球場利用者のうち、競技者数は横ばい

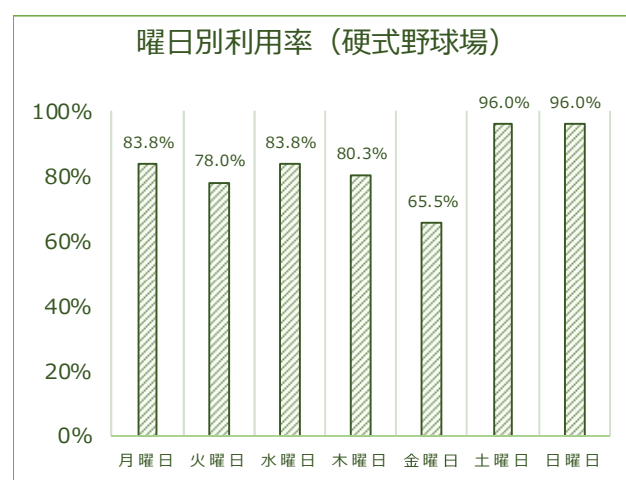
- ・平成 13 年（2001 年）に供用開始した札幌ドームに、それまで円山球場で開催されていたプロ野球の試合が移転したことで、観客を含めた野球場の利用者数は大きく減少し、近年の年間利用者数は約 25 万人です。
- ・観客を含めた利用者数は減少傾向にありますますが、このうち競技者数は年間 10 万人前後で推移し横ばい傾向です。



※有料施設である円山、麻生、美香保球場の利用実績を集計

② 硬式野球場の稼働状況は、飽和状態

- ・野球は団体競技であるため、全て予約が必要な専用利用により運用しています。
- ・前述のとおり観客数は減少しているものの、4～10月の平均利用率は、週末に 95%を超えるなど非常に高い状況にあります。
- ・札幌ドームは、硬式野球以外のサッカーやコンサート等の利用も多い多目的施設であるため、アマチュア野球の場としては円山・麻生両球場に利用が集中し、飽和状態となっています。
- ・野球場の利用は春から秋に限定され、円山球場で年間 160 日前後、麻生球場で 180 日前後しか稼働していませんが、いずれも年間 300 試合以上、1 日平均 2 試合程度開催されています。
- ・試合を札幌市外で行わざるを得ない状況も相当数あり、特に中学生以下の若年層でその傾向が顕著となっています。

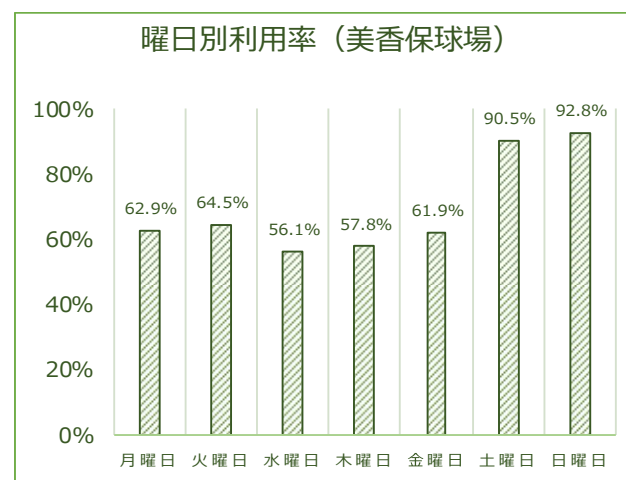


※円山球場、麻生球場の平成 29 年度実績より集計

※利用率は、オンシーズンである 4～10 月の平均

③ 軟式野球場も稼働率が高い状況

- ・軟式野球場についても、4～10月の平均利用率は、週末に 90%を超え高い状況です。
- ・美香保公園野球場は 3 面ありますが、試合数は年間 1,000 試合を超え、1 日平均 1 面につき 2 試合程度開催されている状況です。
- ・無料施設である豊平区体育館附属野球場は、小規模であるなど公式試合が可能な整備水準にはありませんが、幼稚園の運動会やラジオ体操なども含め柔軟に利用されています。
- ・軟式野球場については、硬式野球場とは異なり、公園施設など代替機能が多くあります。



※美香保公園野球場の平成 29 年度利用実績

※利用率は、オンシーズンである 4～10 月の平均

(3) 類似施設の状況等

① その他の硬式野球場

- ・市所管スポーツ施設以外で一般利用が可能な硬式野球場は、民間企業が所有する1施設（硬式野球場規格、夜間照明あり）があり、高校生などに多く利用されています。このほか、一部の高校や大学に専用球場があります。
- ・民間所有の硬式野球場の平成29年度（2017年度）の稼働率は、平日59%、休日92%であり、週末の稼働率は非常に高い状況です。

② その他の軟式野球場

- ・公園には有料の軟式野球場が22施設ありますが、平成24～28年度（2012～2016年）の平均稼働率は平日52.2%、休日91.9%であり、週末の稼働率が非常に高い状況です。
- ・公園には有料施設のほか、無料の軟式野球が可能な少年野球場や多目的広場が100面以上あります。
- ・上記のほか、水再生プラザ（下水処理場）の屋上を活用した軟式野球場（3施設）があります。
- ・練習レベルでは、学校施設を学校教育に支障のない範囲で市民に開放する学校施設開放事業により、学校グラウンドを利用（令和2年度：34校）することも可能です。

4-2. 配置活用の方針・取組

(1) 現状認識

- 野球場の観客を含めた利用者数は減少傾向にあるものの、競技者の利用者数は横ばいで推移（年間約10万人）しています。
- 硬式野球場は施設数が限られ、週末の利用率は95%を超え、稼働できるほぼ全ての日程で試合が行われていることから、施設環境としては飽和状態にあります。
- 軟式野球場も、硬式野球場ほどではないものの、美香保球場のほか公園の有料施設も含めて、週末の利用率は90%を超え高い状況にあります。
- 円山球場、麻生球場は、建設から40年以上が経過し、老朽化の進行により大規模な修繕が必要な状況となっていますが、施設数が限られる硬式野球場のひとつが修繕により長期間閉鎖することは、稼働率が非常に高い状況からも、競技環境に大きな影響を与えます。
- 無料の豊平区体育館附属野球場及び、公園の軟式野球場等や学校グラウンドなどは、子どもたちの身近な遊び場としての使われ方から、軟式野球の試合開催まで、幅広く利用されています。

(2) 配置活用方針

硬式・軟式野球場は、競技大会等に対応する機能を維持・強化

野球場は、公園や民間施設も含め、稼働率が非常に高く推移し、今後も一定の需要があると判断されることから、引き続き、公式試合等を開催できる競技機能を市所管スポーツ施設が担っていきます。

なお、競技機能の確保にあたり、現在、飽和状態にある硬式野球場について、施設環境の強化を図ります。

①市所管スポーツ施設は、大会開催などの競技機能を担う 第2章-取組2～5

- ・市所管スポーツ施設の野球場（硬式・軟式の有料施設）は、市内、道内における、社会人、高校生など、各カテゴリーの大会開催などに対応する競技機能を担います。
- ・新たな硬式野球が可能な場を確保します。

②類似施設（公園、学校）は、軟式野球を中心に幅広いニーズに対応 第2章-取組2

- ・無料の市所管スポーツ施設及び、公園の軟式野球場等や学校グラウンドは、引き続き、子どもたちの身近な遊び場としての使われ方から、軟式野球競技団体による練習や試合開催など、多種多様なニーズに対応していきます。
- ・競技者の日常的な練習などは、引き続き、競技者が所属する学校・企業等の施設が担います。

③計画的な維持修繕、長寿命化等により可能な限り長期間活用 第2章-取組1・5

- ・屋外競技施設の整備には広大な土地が必要であり、騒音や交通量増加など周辺に与える影響が大きく様々な制約があることから、代替の場の確保が困難です。このため、既存施設について、計画的な維持修繕や長寿命化等の実施により、可能な限り長期間活用していくことを基本とします。

(3) 概ね 10 年間の取組事項

● 新たな硬式野球が可能な場の創出（モエレ沼公園軟式野球場改修）

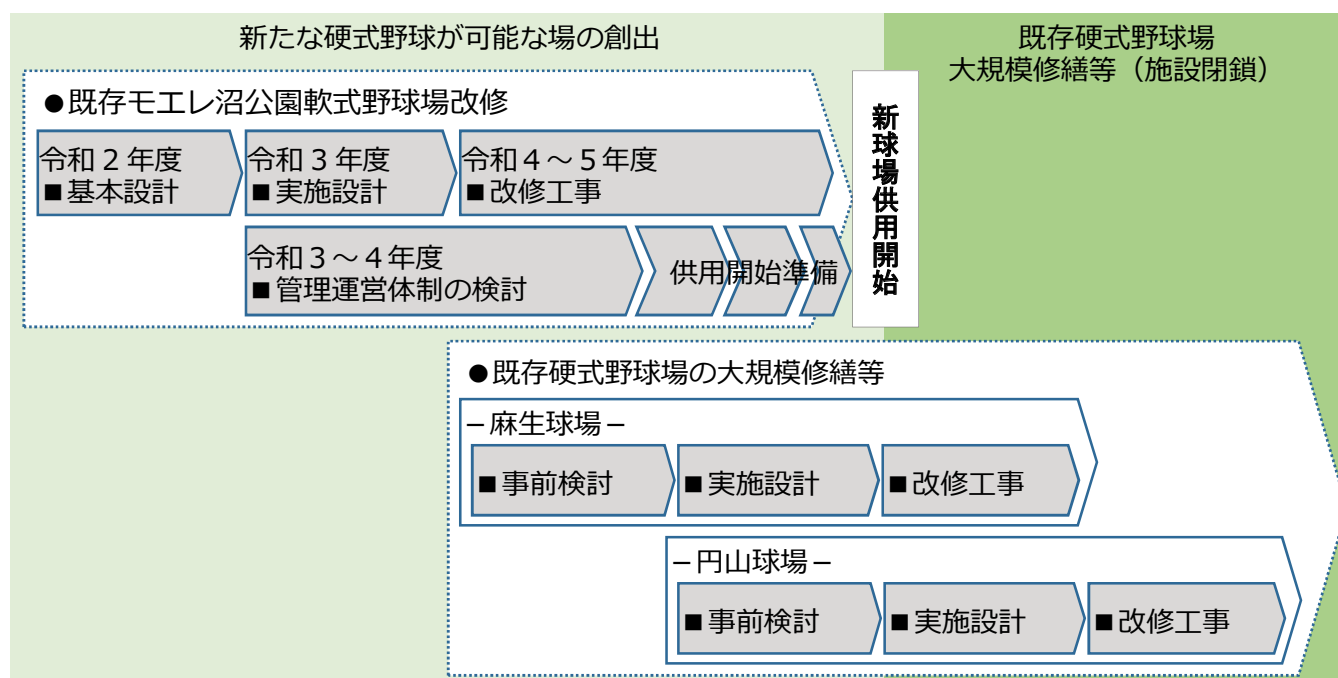
① 新たな硬式野球が可能な場の創出 第2章-取組3～5

- ・ 硬式野球の競技環境強化に向け、既存のモエレ沼公園軟式野球場の安全対策等をレベルアップすることにより、全体の施設数を増やさずに、新たな硬式野球が可能な場を創出します。
- ・ 硬式野球対応に向けたモエレ沼公園軟式野球場の改修にあたっては、円山球場や麻生球場の機能を補完するとともに、夜間照明など整備効果をより発揮できる機能強化について検討します。

② 既存硬式野球場の大規模修繕の実施 第2章-取組1・5

- ・ 新たな硬式野球が可能な場の創出により、円山球場、麻生球場の長期閉鎖に耐えられる競技環境を整えたうえで、両球場の大規模修繕を順に実施します。

<概ね 10 年間にわたる取組の順序>



5. 陸上競技場・サッカー場・ラグビー場

5-1. 施設の現状

(1) 基本情報

＜陸上競技場 2 施設、サッカー場 5 施設・ラグビー場 1 施設＞

※白旗山競技場のサッカー場は、クロスカントリースキーコースを有効利用した施設であることから、
“8. スキー場等”で整理

※札幌ドームは、サッカーやラグビーのほか、硬式野球などの利用も可能な多目的施設であることから
“9. 全天候型スポーツ施設”で整理

施設名	整備年度	陸上トラック	フィールド	その他
厚別公園競技場	1987	400m×9 レーン 日本陸連第 1 種公認 世界陸連認証クラス 2	天然芝 105m×70m	客席約 20,860 席
(補助競技場)	1986	400m×6 レーン 日本陸連第 3 種公認	天然芝 100m×70m	メインストレートは 8 レーン
円山競技場	1982	400m×8 レーン 日本陸連第 2 種公認	天然芝 100m×64.5m	客席約 12,000 席、 冬季屋外リンク
東雁来公園サッカー場	2008	—	人工芝 2 面 105m×68m	サッカーアミューズメントパーク (2 面)隣接
[ラグビー専用施設] 月寒屋外競技場ラグビー場	1987	—	天然芝 100.6m×69.0m	客席約 3,500 席、弓道 場・庭球場併設
(白旗山競技場)	1990	—	天然芝 2 面 105m×68m	アジア初の FIS 公認クロスカ ントリースキーコース
(札幌ドーム)	2001	—	天然芝 2 面、人工芝 1 面 105m×68m	客席約 41,000 席、硬式 野球可能 1 面はホヴァリングステージ

※参考：陸上競技場の種別

[日本陸上競技連盟（以下「日本陸連」という。）公認競技場で開催できる競技会の種別]

- ・第 1 種：日本陸連が主催する日本陸上競技選手権、国民体育大会など全国的及び国際的な大会
- ・第 2 種：各都道府県陸上競技協会等が主催する選手権大会及び主要な競技会並びに日本陸連が承認し主催する競技会
- ・第 3 種：各都道府県陸上競技協会等が主催する競技会
- ・第 4 種：各都道府県陸上競技協会等の競技会・記録会

[ワールドアスレティックス（以下「世界陸連」という。）公認競技場で開催できる競技会の種別]

- ・クラス 1：オリンピックや世界選手権など世界陸連主催・管轄大会
- ・クラス 2：国際招待大会

※参考：サッカーのフィールド

- ・国際大会や J リーグ等は、寸法 105m×68m と規定

※参考：ラグビーのフィールド

- ・国際大会は、寸法 120～144m×70m と規定

【陸上競技場の概要】

- 厚別公園競技場は北海道で唯一の日本陸連が公認する第1種、かつ、世界陸連が公認するクラス2の施設です。
- 厚別公園競技場には、第1種公認にあたって必要となる第3種公認の補助競技場を併設しています。
- 円山競技場は、昭和10年（1935年）に市立総合運動場として開設した、長い歴史を持つ日本陸連公認の第2種競技場です。



厚別公園競技場

【サッカー場の概要】

- サッカー場は多目的施設として整備されている例が多く、札幌市では厚別公園競技場、同補助競技場、円山競技場のトラック内にサッカーに対応する天然芝グラウンドを持ち、特に厚別公園競技場は、札幌ドーム以外でJリーグ等の試合が行われている市内唯一の施設です。
- 東雁来公園サッカー場は、人工芝2面を持つ専用サッカー場であり、隣接するNPO法人が保有する人工芝1面、天然芝1面のグラウンドと併せ、一体的に管理運営を行っています。
- 白旗山競技場は、クロスカントリースキーコースですが、夏季はサッカー場として利用しています。



東雁来公園サッカー場

【ラグビー場の概要】

- 月寒屋外競技場ラグビー場は、市内唯一のスタンド席を持つ専用ラグビー場として、ラグビートップリーグを始めとした様々なレベルの試合が開催されています。
- 月寒屋外競技場には、ラグビー場のほか、弓道場と庭球場を併設しており、特に弓道場は、日本オリンピック委員会（JOC）が認定する、国内に2か所あるアーチェリーの競技別強化センター※28の1つになっています。



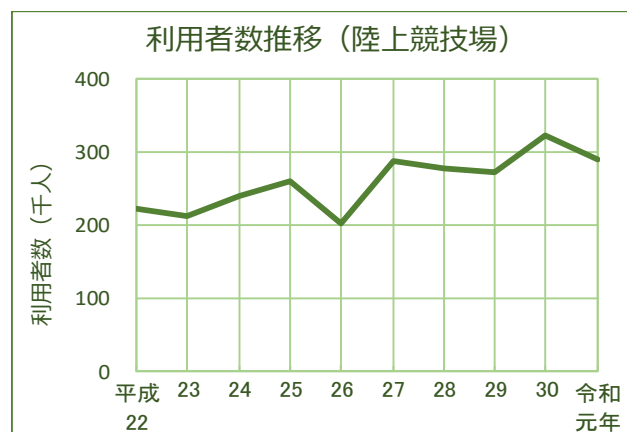
月寒屋外競技場ラグビー場

※28 【日本オリンピック委員会（JOC）認定競技別強化センター】…各競技団体の選手強化活動が円滑に行えるよう、施設活用を支援していくことを目的に、JOCが認定した国内外既存トレーニング施設。

（２）利用状況：陸上競技場

①利用者数は横ばいから増加傾向

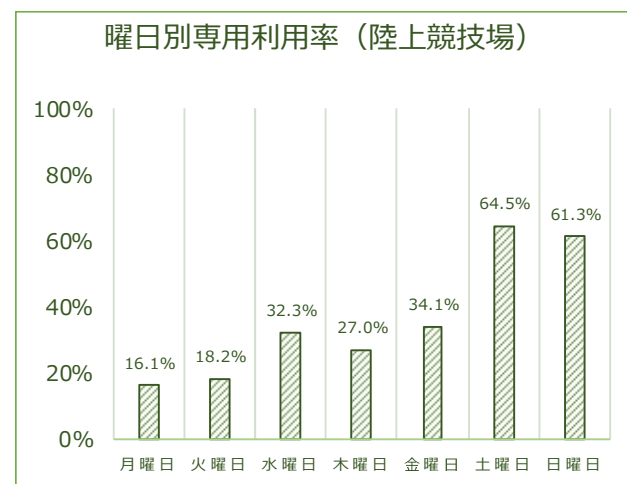
- ・利用者数は、横ばいから増加傾向にあり、近年における観客を含めた年間利用者数は 30 万人前後で推移しています。
- ・両陸上競技場にはトラック内に天然芝グラウンドがあり、特に厚別公園競技場では、プロサッカーの試合が開催されるなど、陸上競技以外の利用が多数あります。



※厚別公園競技場、円山競技場の利用実績を合計
 ※厚別公園競技場が札幌市スポーツ局所管となった平成 22 年度以降の利用者数推移
 ※平成 26 年度の利用者減は、厚別公園競技場・同補助競技場の大規模改修による閉鎖の影響

②陸上競技場の専用利用は週末が多い傾向

- ・専用利用ニーズは週末が高く、週末の平均専用利用率は、約 60%となっています。
- ・専用利用がない時間帯については、一般開放に供しています。
- ・札幌市中学校体育連盟選手権大会から国内トップレベルまで各種の陸上競技大会・記録会が多く実施され、今後も引き続き一定の需要が見込まれます。
- ・両競技場のトラック内にある天然芝グラウンドでは、サッカーやアメリカンフットボールなど、陸上競技以外の利用が多くあります。

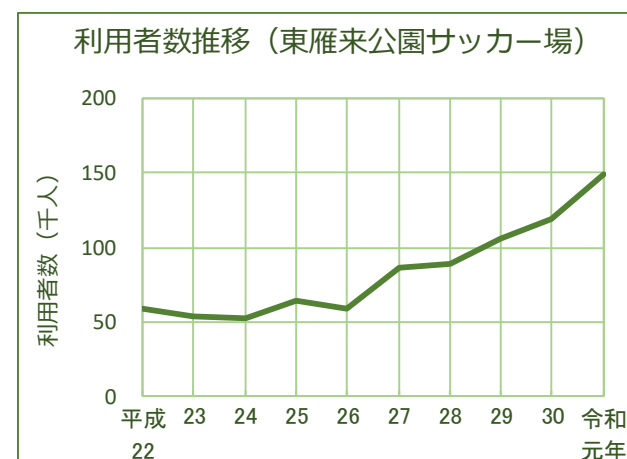


※厚別公園競技場・同補助競技場、円山競技場の平成 29 年度実績より集計
 ※利用率は、オンシーズンである 4～10 月の平均

（３）利用状況：サッカー場

①利用者数は急増

- ・サッカーは、陸上競技場や札幌ドームなどでも行われていますが、これらの施設は多目的施設であるため、ここでは専用施設である東雁来公園サッカー場について整理します。
- ・利用者数は、急激に伸びており、供用開始した平成 12 年度（2010 年度）の約 6 万人から令和元年度（2019 年度）には約 15 万人まで増加しています。

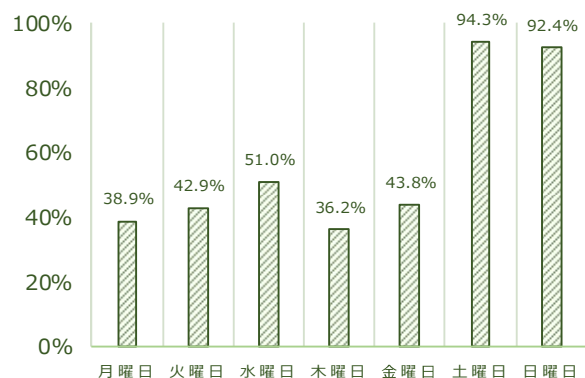


- ・東雁来公園サッカー場は人工芝のため、グラウンドコンディションが使用状況にかかわらず維持されていることや、隣接するクラブハウスなどを備えたNPO法人が所有するグラウンドとの一体的な運営により、高い利便性を備えていることなどが人気の要因と考えられます。

②週末の利用が多い傾向

- ・サッカーは団体競技であるため、全て予約が必要な専用利用により運用しています。
- ・利用ニーズは、週末の平均利用率が90%以上となっており、非常に高い状況です。

曜日別利用率（東雁来公園サッカー場）



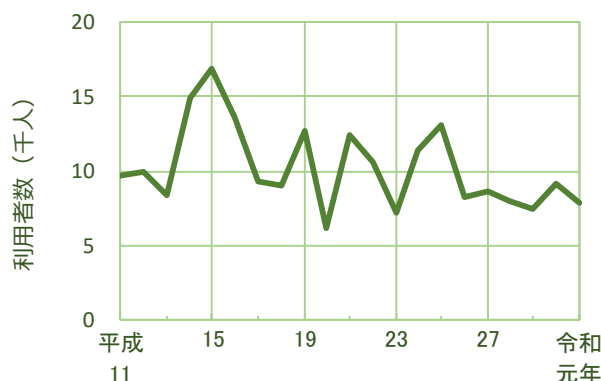
※東雁来公園サッカー場の平成29年度実績
※利用率は、オンシーズンである4～11月の平均

（4）利用状況：ラグビー場

①利用者数は長期的に見て横ばい

- ・利用者数は、年によって増減はありますが、長期的に見て年間1万人前後で推移しています。

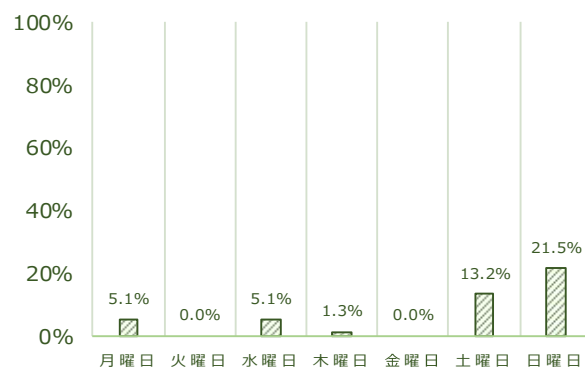
利用者数推移（月寒屋外競技場ラグビー場）



②利用率は低く推移

- ・ラグビーは団体競技であるため、全て予約が必要な専用利用により運用しています。
- ・月寒屋外競技場ラグビー場は、良質の芝を確保するための芝養生が必要であり、稼働可能日数が限られることから、利用率が週末でも20%程度となっています。
- ・札幌ドームを除き、市内で観客を入れてラグビーの公式戦が可能な施設は当施設のみであり、今後も一定の需要があると見込まれます。

曜日別利用率（月寒屋外競技場ラグビー場）



※月寒屋外競技場ラグビー場の平成29年度実績
※利用率は、オンシーズンである4～10月の平均

（５）類似施設の状況等

①学校施設

- ・陸上やサッカーなどの練習は、学校施設を学校教育に支障のない範囲で市民に開放する学校施設開放事業により、学校グラウンドを利用することも可能です（令和２年度：34校）。

②公園施設

- ・公園の陸上競技場は、有料施設が3か所あります。クレイ系（土）舗装のトラックと、トラック内にグラウンドを備え、サッカー等の利用も可能です。
- ・公園のサッカー場等は、ベアグラウンド※²⁹の有料施設が2か所5面、無料施設が3か所4面あります。

③その他施設

- ・陸上競技場は、北海道大学に日本陸連第4種公認の施設があります。
- ・サッカー場は、東雁来公園サッカー場に隣接したNPO法人が所有する施設（天然芝1面、人工芝1面）があります。当施設は、簡易照明、クラブハウスなど設備が充実しており、最近では年間利用者数が10万人を超え、利用率が高い状況にあります。
- ・ラグビーは、サッカー以上に広いグラウンドが必要となり、市内にはNPO法人が所有する施設がありますが、一般利用が可能な施設は非常に限られている状況です。練習レベルではサッカーグラウンドとの共用などが図られているものと考えられます。

（６）その他

①サッカー等の国際試合対応

- ・サッカー等の国際試合の開催の際には、出場チームの練習場所として、試合会場と同等のグラウンド環境などが必要となり、これに対応できるのは基本的に市所管スポーツ施設（厚別公園競技場、白旗山競技場）のみです。

②ラグビーを取り巻く状況

- ・月寒屋外競技場ラグビー場に隣接する月寒体育館（1971年建築）は老朽化が進行しており、2030年の冬季オリンピック・パラリンピック招致に併せ更新検討を行う必要があります。
- ・ラグビーは、ワールドカップ2019TMの開催を契機に人気が高まっており、小学校学習指導要領解説にタグラグビー※³⁰が例示されるなど、今後、さらなる普及が期待されますが、練習などを行う場が少ない状況です。

※²⁹ 【ベアグラウンド】…芝生等で覆われていない土の状態のグラウンド。

※³⁰ 【タグラグビー】…ラグビーをもとに、相手をつかむ、ぶつかりあうなどの体の接触をなくし、安全に競技できるようにした球技。競技者は腰の両側にタグとよばれるひもをつけて垂らす。このタグを奪うことが、ラグビーで攻撃を止めるタックルの替わりになる。

5-2. 配置活用の方針・取組

(1) 現状認識

- 陸上競技場、サッカー場、ラグビー場は、いずれの施設も年間利用者数は横ばいから増加傾向で推移（近年は年間約45万人）しており、また、一定レベル以上の競技会、記録会、試合等の開催に対応できる施設は、各競技連盟の公認等を受けている市所管スポーツ施設のみです。
- 陸上競技場及びラグビー場は、1980年代の建設から30年以上が経過し、大規模修繕が必要な時期を迎えています。
- 月寒屋外競技場ラグビー場に隣接する月寒体育館の更新検討と併せ、ラグビー場や弓道場等を含めた一帯のスポーツ施設の将来像を検討する必要があります。
- 人気が高まっているラグビーについては、今後、さらなる普及が期待されますが、競技を体験できる場の確保に課題があります。

(2) 配置活用方針

陸上競技場、サッカー場、ラグビー場は、
競技大会やプロスポーツ等に対応する機能を維持

陸上、サッカー、ラグビーなどの公式試合等が可能な施設は、市所管スポーツ施設のみであり、札幌市のスポーツ環境を支えるため、今後も、現在の施設機能を維持していきます。

日常的な練習や運動・健康づくりについては、競技者が所属する学校等の施設や、公園などの類似施設がその機能を担っており、引き続き、こうした機能分担により、札幌市におけるスポーツ環境を維持していきます。

①市所管スポーツ施設は、公式試合開催などの競技機能を担う 第2章-取組2・5

- ・市所管スポーツ施設は、関係競技団体の公認等を維持することにより、各競技大会や記録会、国際試合、プロスポーツ等の商業的利用など、高機能が求められる競技性の高い利用を中心的に担っていきます。

②日常的な練習機能は、類似施設等が担う 第2章-取組2

- ・競技者の日常的な練習などは、引き続き、公園の陸上競技場等や学校グラウンド、競技者が所属する学校・企業等の施設が担っていくことで、競技環境を維持していきます。

③計画的な維持修繕、長寿命化等により可能な限り長期間活用 第2章-取組1・5

- ・屋外競技施設の整備には広大な土地が必要であり、騒音や交通量増加など周辺に与える影響が大きく様々な制約があることから、代替の場の確保が困難です。このため、既存施設について、計画的な維持修繕や長寿命化などの実施により、可能な限り長期間活用していくことを基本とします。

(3) 概ね 10 年間の取組事項

●月寒体育館更新と併せた月寒ラグビー場等の将来検討

①陸上競技場の大規模修繕実施 第2章-取組1・5

- ・建設から 30 年以上が経過し老朽化が進んでいる厚別公園、円山の両競技場について、長寿命化に向けた大規模修繕を実施します。

②月寒ラグビー場の対応検討 第2章-取組1・5

- ・月寒屋外競技場ラグビー場に隣接する月寒体育館に係る、2030 年の冬季オリンピック・パラリンピック招致に併せた更新検討に伴い、ラグビー場や弓道場等を含めた一帯のスポーツ施設の将来像を検討します。

③ラグビーの競技環境強化に向けた可能性検討 第2章-取組3

- ・小学生がタグラグビー^{※30}に取り組める場の創出など、市民がラグビーを体験することができる競技環境の強化について、可能性を検討します。

※30 【タグラグビー】…ラグビーをもとに、相手をつかむ、ぶつかりあうなどの体の接触をなくし、安全に競技できるようにした球技。競技者は腰の両側にタグとよばれるひもをつけて垂らす。このタグを奪うことが、ラグビーで攻撃を止めるタックルの替わりになる。

6. テニスコート

6-1. 施設の現状

(1) 基本情報

<テニスコート6施設>

施設名	整備年度	主な仕様	その他
中島公園庭球場（硬式）	1954	6面、クレイコート※ ³¹ 、観客席 1,500 席	4面夜間照明あり
円山庭球場（軟式）	1935	12面、クレイコート、観客席約 1,350 席	4面夜間照明あり
月寒屋外競技場庭球場（硬式・軟式）	1976	4面、ハードコート※ ³²	
麻生庭球場（硬式・軟式）	1980	2面、ハードコート	
スポーツ交流施設庭球場（硬式・軟式）	1997	4面、砂入り人工芝コート※ ³³	全て夜間照明あり
平岸庭球場（硬式・軟式）	2018	20面、セミハードコート※ ³⁴ 、観客席 600 席	

【テニスコートの概要】

- 中島公園庭球場、円山庭球場は、観客席や照明設備を備え、競技大会が継続的に開催されています。
- 中島公園庭球場は、昭和 16 年（1941 年）に札幌庭球協会（現在の札幌テニス協会）が整備したことにより由来した施設であり、整備後は札幌市に寄贈され、当協会が管理運営を行っています。
- 月寒屋外競技場庭球場、麻生庭球場、スポーツ交流施設庭球場は、隣接する大規模なスポーツ施設の敷地を有効活用し整備した施設です。
- 平岸庭球場は、通常のハードコートよりもクッション性の高いセミハードコート※³⁴ や観客席を備えるなど、高機能な施設であり、競技性の高い試合の開催が可能です。



円山庭球場



平岸庭球場

※³¹ 【クレイコート】…土で舗装したコート。

※³² 【ハードコート】…セメントやアスファルトを用いたコート。表面は合成樹脂等でコーティングしている。

※³³ 【砂入り人工芝コート】…人工芝の上に砂を撒いたコート。降雨後の水はけがよい。

※³⁴ 【セミハードコート】…表面のコーティングにクッション性をもたせたハードコート

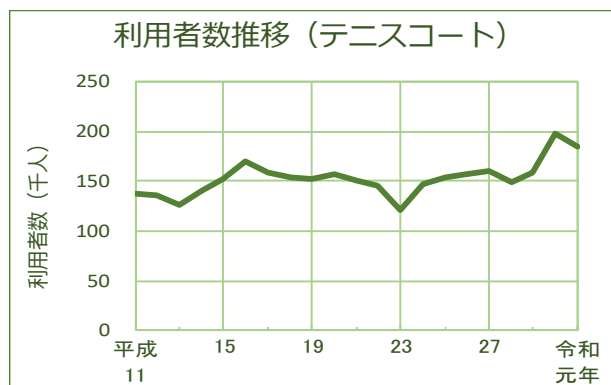
(2) 利用状況

① 利用者数は長期的に見て横ばい

- ・利用者数は、長期的に見て年間 15 万人前後で推移してきましたが、平岸庭球場の再整備が完了した平成 30 年度（2018 年度）は年間約 20 万人に増加しました。

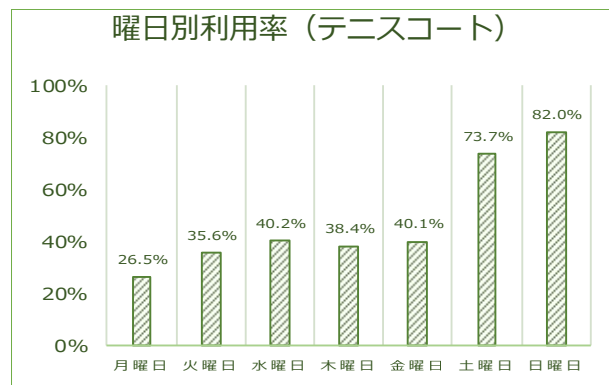
② 週末の利用が多い

- ・テニスコートは、全て予約が必要な専用利用により運用しています（札幌テニス協会が管理運営を行っている中島公園庭球場を除く）。
- ・複数のコートが同時に必要となる大会等は、中島公園、円山、平岸の各庭球場が担っています。
- ・利用は週末に多くなる傾向があり、週末の平均利用率は、大会等に対応する円山庭球場が 90% 前後と非常に高く、4 面以下の小規模な庭球場は 50～80% で推移しています。



※庭球場 6 施設の利用実績を集計

※平成 30 年度の利用者増は平岸庭球場の供用開始による



※札幌テニス協会が管理運営をしている中島公園庭球場及び、平成 30 年度供用開始の平岸庭球場を除いた 4 施設の平成 29 年度実績を集計

※利用率は、オンシーズンである 4～10 月の平均

(3) 類似施設の状況等

① 学校施設

- ・学校施設を、学校教育に支障のない範囲で市民に開放する学校施設開放事業により、体育館でテニスを行うことが可能ですが、稼働率が高く予約が取り難い状況です。

② 公園施設

- ・公園のテニスコートは、有料施設、無料施設とも、それぞれ 100 面以上あり、表層はハードコート※32 が多いものの、一部施設はクレイコート※31 や砂入り人工芝コート※33 で整備しています。
- ・有料施設は、日常的な運動・健康づくりの場としてだけではなく、各種の競技大会が開催されるなど、市所管スポーツ施設とともに競技機能を担っています。

③ 民間施設

- ・札幌市内には、テニスが可能で民間施設が約 20 施設あり、日常的な運動・健康づくりや、クラブ活動などを行う場となっています。

④ その他の施設

- ・上記のほか、区体育館や公園等の屋内施設、水再生プラザ（下水処理場）の屋上を活用した庭球場（4 施設）でもテニスを行うことが可能です。

※31 【クレイコート】…土で舗装したコート。

※32 【ハードコート】…セメントやアスファルトを用いたコート。表面は合成樹脂等でコーティングしている。

※33 【砂入り人工芝コート】…人工芝の上に砂を撒いたコート。降雨後の水はけがよい。

6-2. 配置活用の方針・取組

(1) 現状認識

- 競技大会開催など、同水準のコートが同時に多数必要となる利用については、中島公園、円山、平岸の各庭球場及び、公園の有料施設が担っており、こうした機能は今後も維持していく必要があります。
- 年間利用者数は、平岸庭球場の再整備が完了した平成30年度（2018年度）に約20万人となり、利用率も大会利用が多い円山庭球場の週末利用率は90%前後と、非常に高い状況です。
- 月寒屋外競技場庭球場に隣接する月寒体育館の更新検討と併せ、ラグビー場や弓道場等を含めた一帯のスポーツ施設の将来像を検討する必要があります。
- 市内にはテニスが可能な民間施設が約20施設あり、日常的な運動・健康づくりや、クラブ活動などの機能を担っています。

(2) 配置活用方針

テニスコートは競技大会等に対応する機能を維持

同水準のコートが同時に多数必要となる競技大会等の開催に対応できるのは、中島公園、円山、平岸の各庭球場及び、公園の一部有料施設であり、今後も、こうした競技機能を維持していきます。

日常的な練習や運動・健康づくりなどの機能については、小規模な市所管スポーツ施設や公園施設、競技者が所属する学校等の施設や民間施設などが担っており、引き続き、こうした機能分担により、札幌市におけるスポーツ環境を維持していきます。

① 公式試合開催などの競技機能は市所管スポーツ施設及び公園施設が担う 第2章-取組2・5

- ・ 競技大会開催等の競技機能は、一定以上の面数を有する中島公園、円山、平岸の各庭球場及び、公園施設が担います。

② 日常的な練習機能等は、小規模な施設等が担う 第2章-取組2

- ・ 競技者の日常的な練習などは、引き続き、面数が少ない小規模な市所管スポーツ施設や公園施設、競技者が所属する学校等の施設や民間施設などが担っていくことで、競技環境を維持していきます。

③ 計画的な維持修繕等により、現在の機能を維持 第2章-取組1・5

- ・ 既存施設の維持修繕等を適切に実施していくことにより、札幌市におけるテニスの競技環境を維持していきます。

(3) 概ね 10 年間の取組事項

●月寒体育館更新と併せた月寒屋外競技場庭球場の将来検討

○月寒屋外競技場庭球場の対応検討 第2章-取組1・5

- ・月寒屋外競技場庭球場に隣接する月寒体育館に係る、2030 年の冬季オリンピック・パラリンピック招致に併せた更新検討に伴い、庭球場やラグビー場等を含めた一帯のスポーツ施設の将来像を検討します。
- ・月寒屋外競技場庭球場など、他の施設敷地内に併設する小規模な庭球場については、主たる施設の将来の方向性や、民間施設等の状況を踏まえながら、場合によっては機能の集約など、施設総量適正化に向けた検討を行います。

7. ジャンプ競技場

7-1. 施設の現状

(1) 基本情報

<ジャンプ競技場 4 施設>

施設名	整備年度	主な設備・特徴等
大倉山ジャンプ競技場	1970	ラージヒル（ヒルサイズ 134m）、客席 3,500 席、収容 50,000 人
宮の森ジャンプ競技場	1970	ノーマルヒル（ヒルサイズ 100m）、収容 30,000 人
荒井山ジャンツェ	2003	ミディアムヒル（ヒルサイズ 62m）、スモールヒル（ヒルサイズ 25m）
手稲山ジャンツェ	1999	スモールヒル（ヒルサイズ 33m）

【ジャンプ競技場の概要】

- 大倉山ジャンプ競技場は、1931 年に建設された大倉山ジャンツェを前身とするジャンプ競技場で、宮の森ジャンプ競技場とともに、1972 年の札幌冬季オリンピックに併せ整備した施設です。
- 大倉山、宮の森両競技場ともに、札幌市が国内有数のウィンタースポーツ都市^{※7}であることを象徴する代表的なレガシー^{※27}として利用されています。
- 大倉山、宮の森両競技場は、国際大会を含むトップレベルの大会を開催し、国が指定するナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点^{※35}であるとともに、国際スキー連盟（以下「FIS」という。）公認競技場であり、令和元年度（2019 年度）には、スキージャンプの世界選手権やワールドカップの開催に必要なとなる、ウインド・ゲートファクターシステム^{※36}を導入するなど、国際大会を開催する施設として必要な機能の確保に努めています。
- 大倉山ジャンプ競技場は、国内にあるスキージャンプ・ラージヒル競技が可能なジャンプ競技場 2 か所のうちの 1 つです。
- 荒井山ジャンツェ、手稲山ジャンツェは、小規模なヒルサイズを持つ施設です。



大倉山ジャンプ競技場



荒井山ジャンツェ

※7 【ウィンタースポーツ都市】…ウィンタースポーツの拠点としての環境・ライフスタイルが充実した都市。

※27 【レガシー】…過去に築かれた、精神的・物理的遺産。

※35 【ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点】…トップレベル競技者用トレーニング施設として設置された「味の素ナショナルトレーニングセンター」では対応できない競技について、国際競技力向上のトレーニング環境を整備するため国が指定。トレーニング等のサポート環境及びマネジメント体制の整備などが行われている。

※36 【ウインド・ゲートファクターシステム】…ジャンプ競技において、風の影響や滑走開始ゲートの高さを機械的に得点に反映する装置。目視等によるよりも正確で公平な採点が可能。

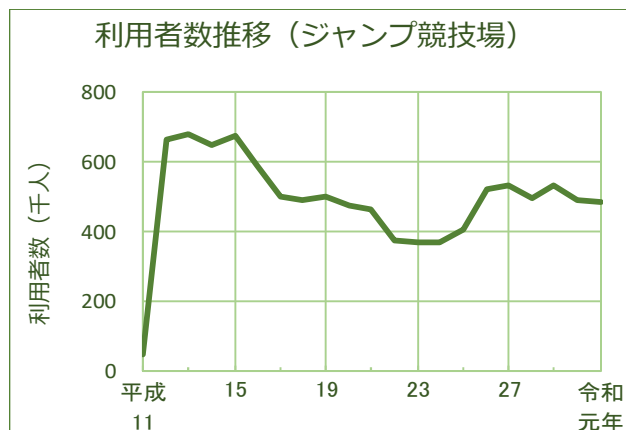
(2) 利用状況

①利用者数は増加傾向

- ・観客や観光客を含めた利用者数は、平成 24 年（2012 年）以降、増加傾向にあり、近年は年間約 50 万人で推移しています。

②国際大会を数多く開催

- ・ジャンプ競技場は、競技者に特化した施設であり、各種大会のほか、練習などでも利用されています。
- ・大倉山、宮の森両競技場は、例年、スキージャンプワールドカップをはじめとする国際大会が数多く開催されています。
- ・大倉山ジャンプ競技場には、札幌オリンピックミュージアムが隣接しているほか、展望台は市内有数の観光スポットとなっており、また、近年は夏季にヒルクライム^{※37}国際大会が開催されるなど、ウインタースポーツ文化や観光といった点でも重要な施設となっています。
- ・荒井山、手稲山両シャンツェは、主にジャンプ少年団の練習や大会等で利用されているほか、競技人口拡大に向けた体験会も開催されるなど、重要な役割を担っています。



※大倉山、宮の森両ジャンプ競技場の利用実績を集計

※平成 11 年度の利用者減は大倉山ジャンプ競技場の工事による影響

(3) その他の状況

○既存施設が有する課題等

- ・大倉山、宮の森両競技場は、世界のジャンプ競技場と比較し、競技運営に使用できるスペースが不足していることや、ラージヒルとノーマルヒルが別地にあるため効率的な大会運営や選手育成ができないなどの課題があります。
- ・大倉山、宮の森両競技場は、昭和 45 年（1970 年）の建設以降、FIS ルール改正に併せた改修を随時進めてきましたが、今後も大規模改修が必要となる可能性があります（FIS ルール改正に伴う過去の改修：1986 年、1995～1997 年大規模改修、2013 年、2018 年）。

7-2. 配置活用の方角・取組

(1) 現状認識

- 観客や観光客を含めた利用者数は増加傾向（近年は年間約 50 万人）にあります。
- 大倉山、宮の森両競技場ともにナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点^{※35}であり、数少ない FIS 公認競技場であることや、特殊な競技であることなどから、他に代わる施設はありません。
- 荒井山、手稲山両シャンツェについても、主にジャンプ少年団の練習や大会等で利用されており、他に代わる施設はありません。
- 大倉山、宮の森両競技場ともに、2030 年の冬季オリンピック競技大会招致に向けては、競技運営

※35 【ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点】…トップレベル競技者用トレーニング施設として設置された「味の素ナショナルトレーニングセンター」では対応できない競技について、国際競技力向上のトレーニング環境を整備するため国が指定。トレーニング等のサポート環境及びマネジメント体制の整備などが行われている。

※37 【ヒルクライム】…登坂競技。カーブや急勾配などを含むコースで走行時間を競う。

のためのスペース確保や効率的な大会運営・選手育成が課題となることに加え、今後、FIS ルール改正に伴う大規模改修が必要になる可能性があります。

(2) 配置活用方針

ジャンプ競技場は、 ウインタースポーツ拠点都市への発展に向け、機能を維持・向上

2030 年の冬季オリンピック・パラリンピック競技大会の招致や、ウインタースポーツの拠点都市への発展に向け、1972 年札幌冬季オリンピックの代表的なレガシー^{※27}であるジャンプ競技場については、引き続き機能を維持・向上していきます。

①国際大会開催などの競技機能は大倉山、宮の森両ジャンプ競技場が担う 第2章-取組2・5・6

- ・スキージャンプワールドカップをはじめとする国際大会等の開催機能や、トップレベルの競技者の練習などは、大倉山、宮の森両ジャンプ競技場が担っていきます。

②荒井山、手稲山両シャンツェは未来のアスリートの育成機能を担う 第2章-取組2・5・6

- ・特殊なスポーツであるジャンプ競技については、日常的な練習についても専用施設で行う必要があることから、経験が浅い競技者の練習場所を、荒井山、手稲山両シャンツェが引き続き担っていくことで、未来のアスリートを育てる環境を維持していきます。

③計画的な維持修繕、長寿命化等により可能な限り長期間活用 第2章-取組1・5・6

- ・ジャンプ競技場は、自然の地形を活用した施設であり、移転等も困難であることから、計画的な維持修繕や長寿命化などにより、既存施設を可能な限り長期間活用していきます。

(3) 概ね 10 年間の取組事項

●大倉山、宮の森両ジャンプ競技場に係る施設課題の対応検討

○大倉山、宮の森両ジャンプ競技場の大規模改修等の検討 第2章-取組1・5・6

- ・競技運営のためのスペース確保及び、今後、必要となる可能性がある、FIS ルール改正に伴う大規模改修等への対応を検討します。
- ・効率的な大会運営・選手育成を含めた利便性の向上やスポーツの拠点化に向け、集約化などについても検討します。

※27 【レガシー】…過去に築かれた、精神的・物理的遺産。

8. スキー場等：白旗山競技場・藤野野外スポーツ交流施設（Fu's）

8-1. 施設の現状

（1）基本情報

＜スキー場等2施設＞

施設名	整備年度	主な設備・特徴等
白旗山競技場	1990	F I S 公認クロスカントリースキーコース（延長 25 km）、歩くスキーコース（延長 4.5 km）、ローラースキーコース、天然芝サッカー場 2 面
藤野野外スポーツ交流施設（Fu's）	1984	リフト等 3 基、全 6 コース、リージュ 1 コース、夏季利用あり

【白旗山競技場の概要】

- 白旗山競技場は、1990 年に本格的なスキー距離競技場として整備し、全長 25km の起伏に富んだコースは、アジア初の国際スキー連盟（FIS）公認クロスカントリースキーコースです。
- 歩くスキーコースとして一般開放しているほか、夏季はサッカー場としても利用しています。



白旗山競技場

【藤野野外スポーツ交流施設（Fu's）の概要】

- 藤野野外スポーツ交流施設（以下「フズ」いう。）は、約 33 万平方メートルの敷地を持つ、自然体験型の通年施設です。
- スキー場には 6 つのコースがあり、ファミリーゲレンデのほか、最長 1,800m・最大斜度 38 度のコースがあるなど、初心者から上級者まで楽しむことができます。
- リージュ競技場は、1972 年の札幌冬季オリンピックの練習用コースとして整備し、長野市ボブスレー・リージュパークが設置されるまでアジア唯一のリージュコースでした。現在は日本国内で 2 カ所あるリージュコースの 1 つとなっています。



藤野リージュ競技場

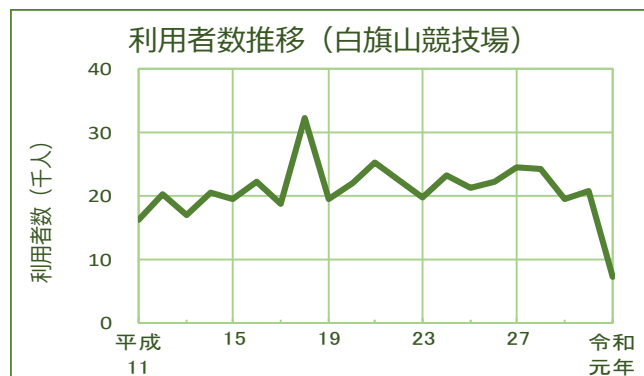
（2）利用状況：白旗山競技場

①利用者数は長期的に見て横ばい

- ・年間利用者数は約 2 万人で推移し、横ばい傾向にあります。
- ・利用者数の内訳は、冬季のクロスカントリースキーが約 1 万人、夏季のサッカー場が約 5 千人のほか、ローラースキーや競技観戦等による利用が約 5 千人となっています。

②多目的に通年利用

- ・冬季は、歩くスキーコースとして一般開放しています。



※令和元年度の利用者減は、夏季サッカー場利用について、東京 2020 サッカー試合開催に係る練習場使用に向けた芝養生期間の確保及び、冬季間における少雪・新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響

- ・平成2年（1990年）3月の第2回冬季アジア競技大会を皮切りに、ユニバーシアード冬季大会や、FIS ノルディックスキー世界選手権等の国際大会の会場となりました。
- ・夏季はサッカー場として利用されており、ラグビーワールドカップ 2019™や東京 2020 オリンピックなどの国際大会開催時に、出場チームの練習場として対応できる数少ない施設のひとつになっています。

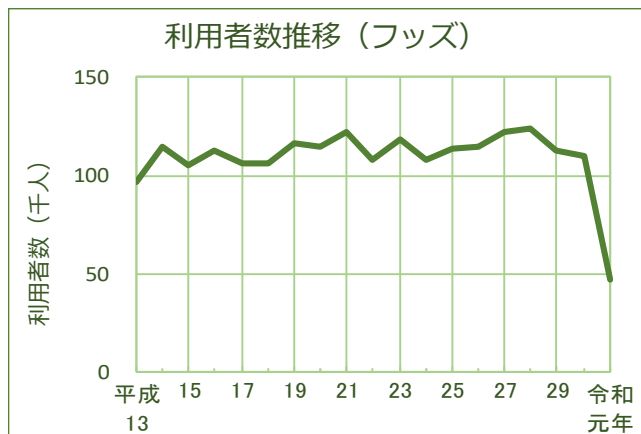
（３）利用状況：フズ

①利用者数は長期的に見て横ばい

- ・年間利用者数は約 10 万人で推移しており、横ばい傾向にあります。
- ・年間利用者数のうち、スキー利用が大部分を占め、リージュ利用は千人未満です。

②多目的に通年利用

- ・札幌市内にあるスキー場は、学校のスキー授業から地元スキーヤーの利用、道外や海外からの観光客の利用など、様々な形で親しまれています。
- ・リージュコースでは、体験教室も開かれています。
- ・夏季は主に、登山やマウンテンバイクなどの自然体験型のスポーツに触れられる施設として利用されています。



※札幌市所管となった平成13年度以降の利用者数

※リフト利用延数から利用者数を推計（1人当たりの日平均リフト利用回数を7.18回として算出）

※令和元年度の利用者減はクマ出没や少雪・新型コロナウイルス感染症(COVID-19)による影響

（４）類似施設の状況等

①民間企業等が運営するスキー場

- ・市内には、民間企業等が運営するスキー場が4施設あります。
- ・1990年代頃までブームとも呼べるほどの人気スポーツであったスキーは、その後、札幌市内でもスキー場が3か所閉鎖されるなど低迷しましたが、近年では、インバウンド※⁹の増加等により、民間企業等が運営するスキー場4施設の合計利用者数が年間約100万人で推移するなど、持ち直す傾向にあります。

②国営滝野すずらん丘陵公園スノーワールド

- ・国営滝野すずらん丘陵公園は、冬季に「滝野スノーワールド」として供用されています。
- ・スキー未経験の子どもなどでも楽しむことができる、長さ250メートル、傾斜7度のゲレンデのほか、延長1km～16kmの歩くスキー6コースなどがあります。

③その他、歩くスキーコース

- ・市内の歩くスキーコースは、白旗山競技場、滝野スノーワールドのほか、公園などに10箇所以上開設されています。

※⁹【インバウンド】…外国人旅行者を自国へ誘致することの意。

(5) その他

○スノーリゾートシティ SAPPORO 推進戦略

- ・札幌市では、スノーリゾートとしての世界的ブランド確立を目指し、フッズを含む市内スキー場6施設を中心とした「スノーリゾートシティ SAPPORO 推進戦略」策定等の取組を進めています。

8-2. 配置活用の方角・取組

(1) 現状認識

- 白旗山競技場は、市内唯一の FIS 公認クロスカントリースキーコースであり、利用者数は横ばい傾向（年間約2万人）にあります。
- 白旗山競技場のサッカー場は、サッカーやラグビーの国際大会開催時に、出場チームの練習場として対応できる数少ない施設のひとつです。
- フッズは、初心者から上級者まで対応するスキー場として、また、日本国内で2カ所しかないリージュコースの1つとして利用され、利用者数は横ばい傾向（年間約10万人）にあります。
- 札幌市では、ウィンタースポーツの拠点都市及び、スノーリゾートシティ SAPPORO の実現に向けた取組を進めています。

(2) 配置活用方針

スキー場等は、
ウィンタースポーツ拠点都市などへの発展に向け、機能を維持

FIS 公認クロスカントリースキーコースやリージュコース、また、市民が気軽に行けるスキー場など、多様なニーズに対応できる機能を今後も維持していくことで、ウィンタースポーツ拠点都市などへの発展に向けた、スポーツ環境を確保していきます。

①白旗山競技場は国際大会等に対応可能なスポーツ環境を形成 第2章-取組2・5・6

- ・白旗山競技場は、クロスカントリースキーのほか、サッカーやラグビー等の国際試合開催時における出場チームの練習場所の提供など、札幌市がトップレベルの競技大会開催を可能とするために必要な、施設機能の一部を担っていきます。

②フッズは多様性のあるスポーツ環境を形成 第2章-取組2・5・6

- ・初心者から上級者まで対応するスキーコースやリージュコースなどを備えるフッズは、多様性のあるスポーツ環境の形成に向けた、施設機能の一部を担っていきます。

③計画的な維持修繕、長寿命化等により可能な限り長期間活用 第2章-取組1・5・6

- ・スキー場等は、自然の地形を活用した施設であり、移転なども困難であることから、計画的な維持修繕や長寿命化などの実施により、既存施設を可能な限り長期間活用していきます。

(3) 概ね 10 年間の取組事項

●老朽化による劣化等が著しい施設の維持更新実施

○フズのリフト施設の計画的な維持更新 第2章-取組1・5・6

・老朽化による劣化等が著しいフズのリフト施設について、計画的な維持更新を進めていきます。

9. 全天候型スポーツ施設：スポーツ交流施設（つどーむ）・札幌ドーム

9-1. 施設の現状

(1) 基本情報

＜スポーツ交流施設（つどーむ）・札幌ドーム＞

施設名	整備年度	アリーナ面積	その他
スポーツ交流施設(つどーむ)	1997	11,484 m ²	客席約 1,200 席 敷地内に球技場、庭球場 4 面、18 ホールパークゴルフ場
札幌ドーム	2001	14,460 m ²	客席約 41,000 席 天然芝ホヴァリングステージ 敷地内にサッカー場 2 面（天然芝 1 面、人工芝 1 面）

【スポーツ交流施設（つどーむ）の概要】

- 約 1,200 席の観客席と人工芝フィールドを備えた、札幌ドームに次ぐ規模を持つ多目的施設です。
- 敷地内には、球技場、庭球場 4 面、18 ホールパークゴルフ場のほか、イベント広場や多目的広場などを設置しています。

【札幌ドームの概要】

- 約 41,000 席の観客席を備え、プロサッカーが可能な天然芝グラウンド（ホヴァリングステージ）と、プロ野球が実施可能な人工芝グラウンドを併せ持つ、札幌市最大の多目的施設です。
- 練習用グラウンドとして、敷地内にサッカー用グラウンド 2 面を設置しています。
- ドーム内には、通年営業のレストランやグッズショップのほか、ドーム内と市内の両方を一望できる高さ約 53m の展望台を設置しています。



つどーむ（外観）



つどーむ（内観）



札幌ドーム（外観）

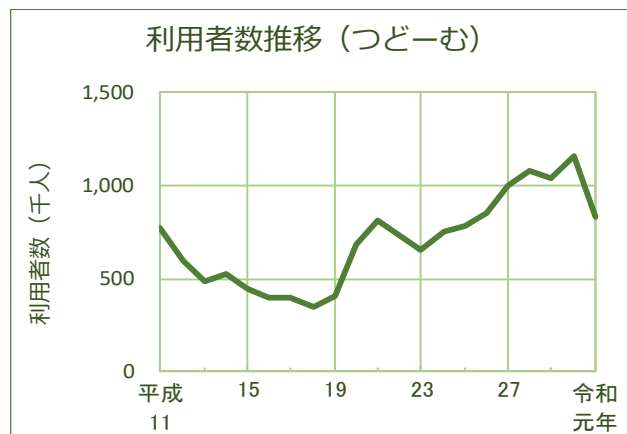


札幌ドーム（内観）

(2) 利用状況：スポーツ交流施設(つどーむ)

①利用者数は増加傾向

- ・スポーツ交流施設（以下「つどーむ」という。）の年間利用者数は、平成 21 年度（2009 年度）から、さっぽろ雪まつりの会場になったことがきっかけとなり、平成 18 年度（2006 年度）の約 35 万人から平成 30 年度（2018 年度）には約 116 万人まで増加しています。
- ・利用者のうち、イベント等を除くスポーツを目的とした利用者数は、年間約 20 万人で推移しています。



※敷地内にある多目的広場、庭球場、ホールパークゴルフ場の利用者を除く

※令和元年度の利用者減は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響

②冬期間でも多様なスポーツが可能な場として

多目的に利用

- ・つどーむは、札幌ドームより小規模ではあるものの、軟式野球やサッカーなどのスポーツのほか、集会や展示会など多目的に利用されています。
- ・平成 29 年度（2017 年度）の利用内容は、イベントにより延べ 207 日間利用され、これに伴う設営撤去を含めると、稼働率は約 66%です。

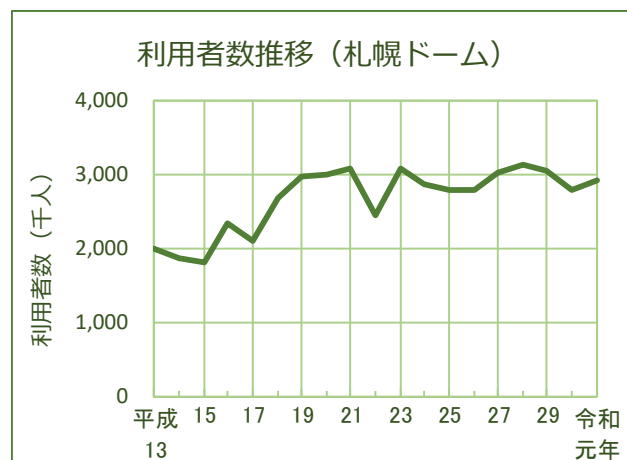
(3) 利用状況：札幌ドーム

①利用者数は横ばい

- ・利用者数は年間約 300 万人で推移しており、このうちの 95%以上は、プロスポーツ観戦等のイベント参加者が占めています。

②トップレベルのスポーツ観戦の場

- ・札幌ドームは、積雪寒冷地でも一年を通じて天候に左右されない大規模イベント施設として、サッカーの 2002 FIFA サッカーワールドカップやラグビーワールドカップ 2019™の会場となったほか、プロサッカー、プロ野球、コンサート、展示会や見本市など、様々な大規模イベントが開催される拠点施設として活用されています。
- ・平成 29 年度（2017 年度）の利用状況は、イベントにより延べ 133 日間利用され、これに伴う設営撤去やプロスポーツチームの練習等を含めると、稼働率は 70%を超えています。



（４）類似施設の状況等

○類似施設：農試公園ツインキャップ

- ・全天候型スポーツ施設としては、公園施設の農試公園ツインキャップがあり、屋内の多目的アリーナは、約 3,000 m²（54m×54m）の広さがあります。
- ・季節を問わず一年中、サッカーや野球、テニス、ゲートボール等により利用されています。

（５）その他

①まちづくりにおける「つどーむ周辺」の位置付け

- ・つどーむは、札幌市が戦略ビジョン等により、地域交流拠点^{※12}として位置付けている「栄町」の周辺に位置しています。「栄町」は、後背圏を支えるための取組が必要な拠点であり、ゲートウェイ拠点としての機能強化などのまちづくりを展開していくこととしています。

②まちづくりにおける「札幌ドーム周辺」の位置付け

- ・札幌ドームは、札幌市が戦略ビジョン等により、地域交流拠点^{※12}として位置付けている「福住」の周辺に位置しています。「福住」は、後背圏を支えるための取組が必要な拠点であり、ゲートウェイ拠点としての機能強化などのまちづくりを展開していくこととしています。
- ・札幌市では、戦略ビジョン等により、「札幌ドーム周辺」を高次機能交流拠点^{※26}として位置付け、スポーツや集客交流産業の振興などに関わる拠点性を高めるため、多様なイベントの開催や、札幌ドームと相乗効果が期待できる多様な施設の立地など、周辺を含めた更なる活用を図ることとしています。

③北海道日本ハムファイターズの本拠地移転

- ・現在、札幌ドームをホームスタジアムとしている北海道日本ハムファイターズが、令和 5 年度（2023 年度）の本拠地移転を表明しています。

※12 【地域交流拠点】…交通結節点である主要な地下鉄・ＪＲ駅周辺で、インフラの整備状況や機能集積の現状・動向等から地域の生活を支える主要な拠点としての役割を担う地域又は、区役所を中心に生活利便機能が集積するなどして区の拠点としての役割を担う地域。札幌市立地適正化計画（平成 28 年（2016 年）3 月策定）における、医療・福祉・商業等の都市機能を誘導し集約を図る都市機能誘導区域。

※26 【高次機能交流拠点】…産業や観光、文化芸術、スポーツなど、国際的・広域的な広がりをもって利用され、札幌の魅力と活力の向上を先導する高次な都市機能が集積する拠点。

9-2. 配置活用の方針・取組

(1) 現状認識

- つどーむは、個別の利用目的毎では同様の機能を有する施設はありますが、札幌ドームと公園施設である農試公園ツインキャップとの中間的な規模を持ち、この3施設でスポーツに係る多様なニーズに対応しています。
- 札幌ドームは、道内最大の施設であり、代替可能な施設はありません。
- 両施設とも、スポーツやコンサート、展示会や見本市など、多目的に利用されています。
- 北海道日本ハムファイターズが、令和5年度（2023年度）の本拠地移転を表明していることから、これまでの利用内容を転換し、札幌ドームが本来持つ多目的施設としての能力・可能性を最大限発揮させる活用の促進が必要です。
- つどーむは、地域交流拠点^{※12}である「栄町」の周辺に立地する特徴的な施設であり、札幌ドームは、高次機能交流拠点^{※26}「札幌ドーム周辺」における中心的な施設であるとともに、地域交流拠点である「福住」の周辺に立地する特徴的な施設です。

(2) 配置活用方針

全天候型スポーツ施設は、 スポーツ振興・経済・文化等を牽引する施設として機能を維持

つどーむ及び、札幌ドームは、札幌市におけるスポーツ振興はもとより、今後も札幌市が北海道の経済・文化を牽引する中心都市としての役割を果たしていくうえで必要な施設であることから、将来に渡り機能を維持していきます。

また両施設は、地域における特徴的な施設でもあることから、利便性向上や拠点形成に資する役割を担っていきます。

① つどーむは、多様性のあるスポーツ環境を形成 第2章-取組1・2・5

- ・ つどーむは、市民が積雪寒冷地でも一年を通じてスポーツに取り組める場の創出を担っていきます。

② 札幌ドームは、国際大会やプロスポーツ等を開催 第2章-取組1・2・5

- ・ 札幌ドームは、積雪寒冷地でも一年を通じて天候に左右されない大規模イベント施設として、国際的な大会、プロスポーツなどトップレベルの試合のほか、コンサート、展示会など道内における様々なイベント開催機能を担っていきます。
- ・ まちづくりにおける高次機能交流拠点^{※26}の形成に向けた、中心的な役割を担っていきます。

※12 【地域交流拠点】…交通結節点である主要な地下鉄・JR駅周辺で、インフラの整備状況や機能集積の現状・動向等から地域の生活を支える主要な拠点としての役割を担う地域又は、区役所を中心に生活利便機能が集積するなどして区の拠点としての役割を担う地域。札幌市立地適正化計画（平成28年（2016年）3月策定）における、医療・福祉・商業等の都市機能を誘導し集約を図る都市機能誘導区域。

※26 【高次機能交流拠点】…産業や観光、文化芸術、スポーツなど、国際的・広域的な広がりをもって利用され、札幌の魅力と活力の向上を先導する高次の都市機能が集積する拠点。

③計画的な維持修繕、長寿命化等により可能な限り長期間活用 第2章-取組1・5

- ・両施設の整備には広大な土地が必要となり、交通量増加など周辺に与える影響が大きく様々な制約があることから、代替の場や類似施設の確保は困難です。このため、両施設の計画的な維持修繕や長寿命化などにより、可能な限り長期間の活用を図り、大規模イベントなどの継続的な開催や、市民が安全・安心・快適にスポーツに親しめる環境を維持していきます。

(3) 概ね10年間の取組事項

●札幌ドームの活用促進に向けた取組の実施

○札幌ドームの活用促進に向けた取組の実施 第2章-取組3

- ・札幌ドームが持つ多目的施設としての能力、可能性を最大限発揮させるため、利活用の裾野拡大や多様なイベントに対応するための機能拡充などに向けた取組を進めます。